

令和7年度
学校評価

球磨村立球磨清流学園

令和8年3月10日

○学校評価アンケート用紙(保護者、児童生徒、教職員)	P 3
○学校評価アンケート結果集計	P 6
○学校評価アンケート各項目結果	
(1) 児童生徒・教職員に関する質問	P 7
(2) 豊かな心の育成に関する質問	P 1 2
(3) 健康な体の育成に関する質問	P 1 5
(4) 確かな学力の育成に関する質問	P 1 9
(5) 教育環境の整備に関する質問	P 2 4
(6) 社会に開かれた教育課程の推進に関する質問	P 2 6
(7) 保護者による自由記述の内容	P 2 8
○学校評価に関する分析及び考察	P 2 9
○学校評価に関する今後の対策	P 3 3
○学校運営協議会委員からの主な意見	P 3 5

学校評価アンケート（児童生徒用）

このアンケートは、球磨清流学園をよりよくするための資料とするものです。みなさんが普段感じていることを素直に回答してください。

A…そう思う B…どちらかといえばそう思う
C…どちらかといえばそう思わない D…そう思わない E…分からない

評価項目		A	B	C	D	E
児童生徒・教職員	① 私は、家庭や地域であいさつを進んでしている。					
	② 私は、学校のきまりや社会のルールを守っている。					
	③ 私は、学校へ行くのを楽しみにしている。					
	④ 学校の「学校だより」「学級通信」「ほけんだより」「ホームページ」などは、分かりやすく、読みやすい。					
	⑤ 学校の先生たちは、保護者や地域の人に丁寧に対応している。					
豊かな心の育成	⑥ 学校の先生たちは、子供たちが安心して過ごせる学級・学校づくりを進めている。					
	⑦ 学校の先生たちは、学校でいじめ等が起こらないように取り組んでいる。					
	⑧ 学校の先生たちは、子供たち一人一人の困りごとに寄り添いながら、学習を進めてくれている。					
健康な体の育成	⑨ 学校の先生たちは、子供たちが「早ね・早起き・朝ごはん」を心がけて生活するように言葉かけをしている。					
	⑩ 学校は、子供たちの体力が向上するように努力をしている。					
	⑪（7～9年生のみ） 学校の先生たちは、部活動で認め、ほめ、励まし、伸ばすような言葉かけをしてくれている。					
	⑫ 学校は、命を守るための避難訓練や防災教育のために努力をしている。					
確かな学力の育成	⑬ 学校の先生たちは、子供たちが「分かった」「できた」「もっとやってみよう」と思えるような授業をしてくれている。					
	⑭ 学校の先生たちは、タブレットパソコンや電子黒板などを使っている。					
	⑮（3年生以上で回答） 私は、英語（外国語活動）を楽しく学ぶことができています。					
	⑯ 私は、図書館等を利用して、学校や家庭でよく読書をしている。					
	⑰ 私は、家庭で宿題や自主学習に毎日取り組んでいる。					
教育環境の整備	⑱ 学校内のポスターやプリント、子供たちの作品等は分かりやすく掲示されている。					
	⑲ 学校は、ていねいな言葉遣いをする人が多い。					
学校・地域との連携	⑳ 学校は、地域とともにある学校づくりのために、コミュニティ・スクールとして取り組んでいる。					
	㉑ 私は、将来の夢や目標をもって生活をしている。					

1月13日（火）～19（月）の期間で児童生徒が Google フォームで回答入力。

※ 3年生～6年生、7年生～9年生に分けて実施。
1年生、2年生は実施せず。

学校評価アンケート（教職員用）

先生方が普段感じられていることを回答してください。

A…そう思う B…どちらかといえばそう思う
C…どちらかといえばそう思わない D…そう思わない E…分からない

評価項目		A	B	C	D	E
児童生徒・教職員	① 児童生徒は、家庭や地域であいさつを進んでいる。					
	② 児童生徒は、学校のきまりや社会のルールを守っている。					
	③ 児童生徒は、学校へ行くのを楽しみにしている。					
	④ 教職員は「学校だより」「学級通信」「ほけんだより」「ホームページ」などで、保護者や地域に分かりやすく情報発信をしている。					
	⑤ 教職員は、保護者や地域の人に誠実・丁寧に対応している。					
豊かな心の育成	⑥ 教職員は、子供たちが安心して過ごせる学級・学校づくりを進めている。					
	⑦ 教職員は、いじめ・不登校の未然防止に努めている。					
	⑧ 教職員は、支援を必要とする児童生徒の教育活動について共通理解を図りながら取り組んでいる。					
健康な体の育成	⑨ 教職員は、基本的な生活習慣（早ね・早起き・朝ごはん等）の指導や啓発を行っている。					
	⑩ 教職員は、児童生徒の体力向上・強化のための取組を行っている。					
	⑪（全職員回答） 教職員は、部活動において、認め、ほめ、励まし、伸ばすような指導を心がけている。					
	⑫ 教職員は、避難訓練や防災教育を通して、命を守るための取組を行っている。					
確かな学力の育成	⑬ 教職員は、児童生徒が「分かった」「できた」「もっとやってみよう」と思えるような授業（学習指導）を行っている。					
	⑭ 教職員は、児童生徒の学力向上のためにICT機器を効果的に活用している。					
	⑮（全職員回答） 教職員は、英語教育の充実のための取組を行っている。					
	⑯ 児童生徒は、図書館等を利用して、学校や家庭でよく読書をしている。					
	⑰ 教職員は、宿題や自主学習等の課題を通して、児童生徒の家庭学習の習慣化のための取組を行っている。					
教育環境の整備	⑱ 教職員は、児童生徒の興味・関心を高めるための掲示物の工夫・改善を行っている。					
	⑲ 教職員は、丁寧な言葉遣いを心がけ、児童生徒の言語環境を整えている。					
社会性の育成	⑳ 本校は、地域とともにある学校づくりのために、人的・物的資源を活用したコミュニティ・スクールとして取り組んでいる。					
	㉑ 教職員は、児童生徒に夢や希望を持つことの大切さを指導するキャリア教育を行っている。					

令和7年度 学校評価アンケート 集計

2026/1/26

学校評価アンケートの肯定的評価をまとめたものです。

(教職員の評価は除いています)

・肯定的評価…「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の回答合計

高評価	三者（保護者・児童生徒）平均 80%以上	設問番号	R7	R6
	防災教育の充実	12	95.3	93.0
	規範意識	2	89.8	89.4
	I C T機器の効果的活用	14	89.0	88.8
	あいさつ	1	86.6	83.6
↑	校内掲示の充実	18	82.2	76.7
↑	職員対応	5	81.8	77.4
↑	基本的生活習慣の確立	9	81.1	77.3
↑	支援体制の充実（特別支援教育）	8	80.7	78.3
↑	部活動指導の充実	11	80.6	65.2

中評価	三者（保護者・児童生徒）平均 70%～80%未満	設問番号	R7	R6
	人権教育の充実	6	79.7	75.6
↓	授業改善	13	79.4	80.5
	情報公開	4	76.6	75.7
	家庭学習の習慣化	17	76.6	75.2
↑	英語教育の充実	15	72.6	63.8
↓	体力の向上・強化	10	72.9	82.6
	登校意欲	3	72.3	77.7
↑	学校運営協議会の充実	20	70.8	64.8

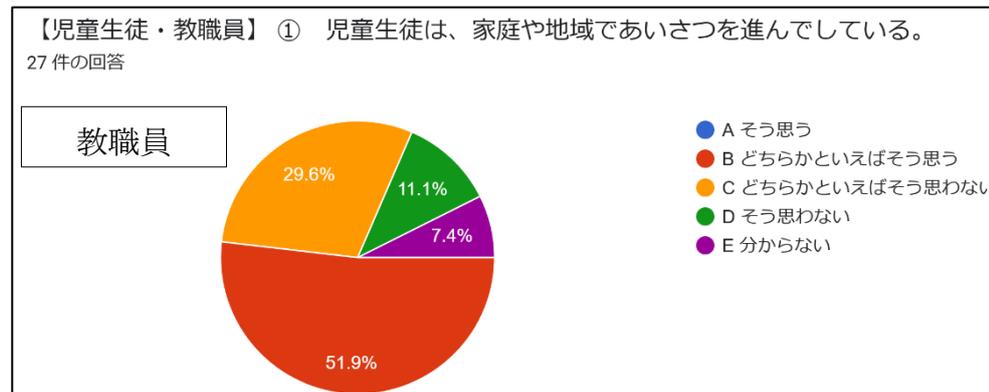
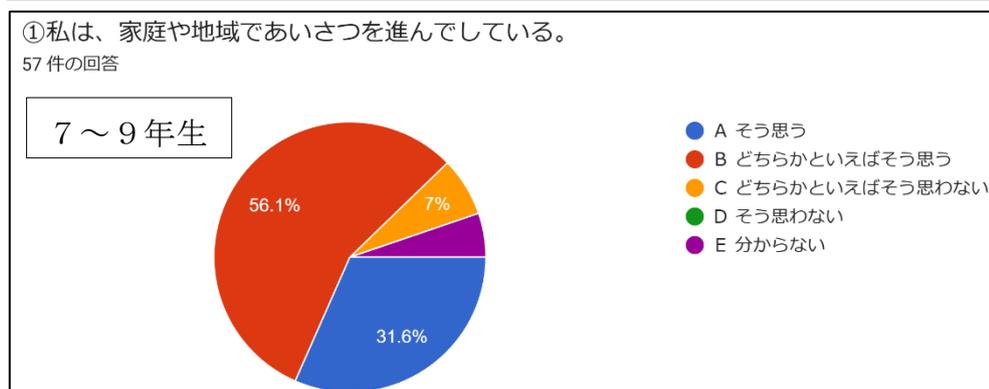
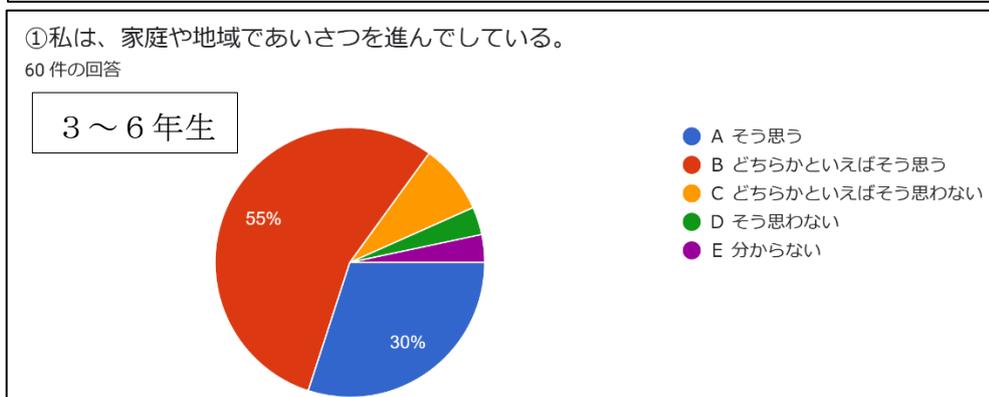
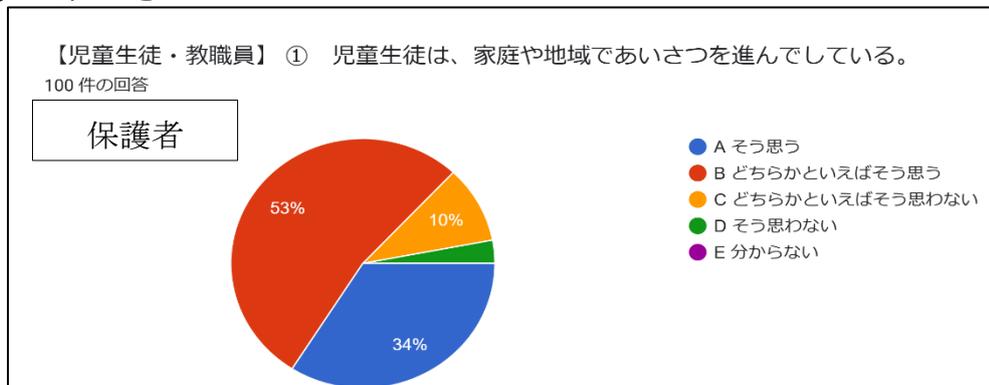
低評価	三者（保護者・児童生徒）平均 70%未満	設問番号	R7	R6
	いじめ・不登校の未然防止	7	68.7	69.0
	キャリア教育の充実	21	65.9	66.0
	言語環境の充実	19	65.1	67.6
	読書活動の推進	16	48.7	47.1

令和7年度 球磨清流学園 学校評価アンケート集計

(保護者、児童生徒(3~6年生・7~9年生)、教職員:全21問)

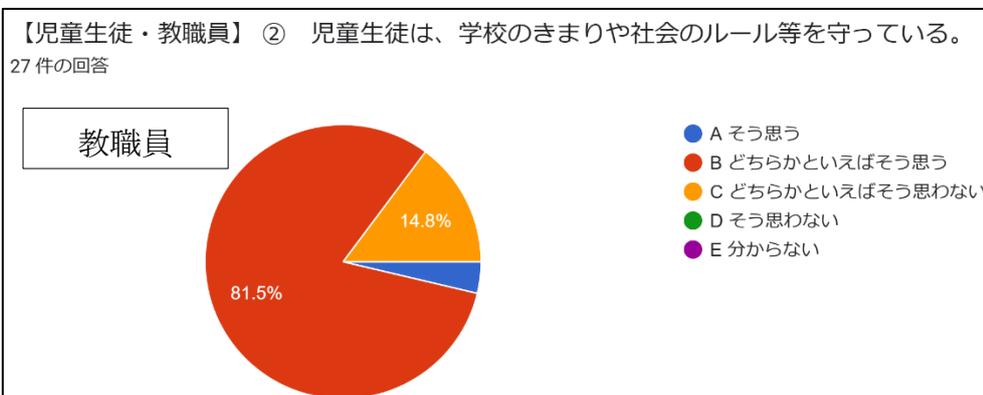
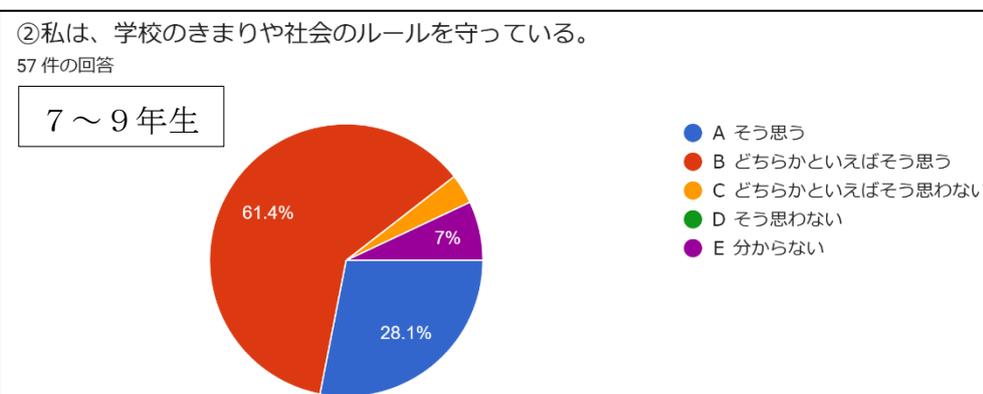
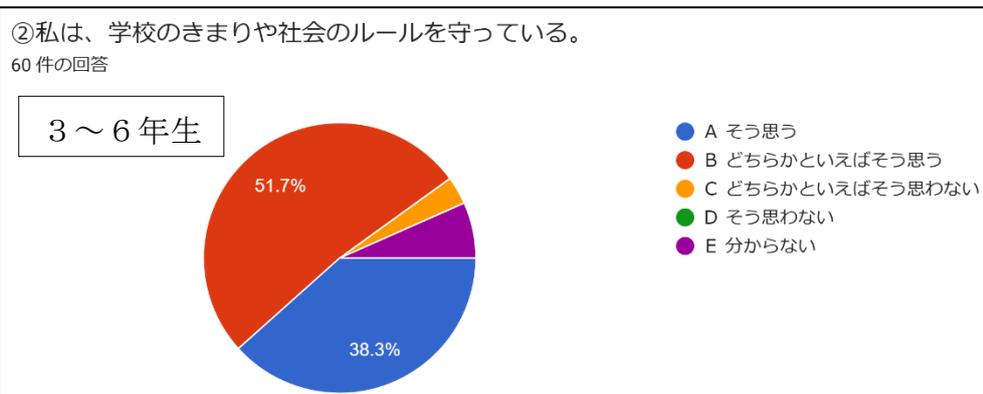
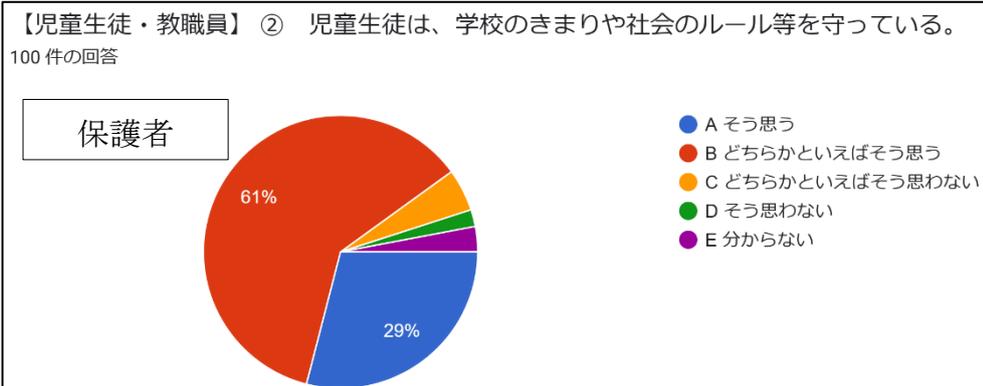
【児童生徒・教職員に関する質問】

① あいさつ



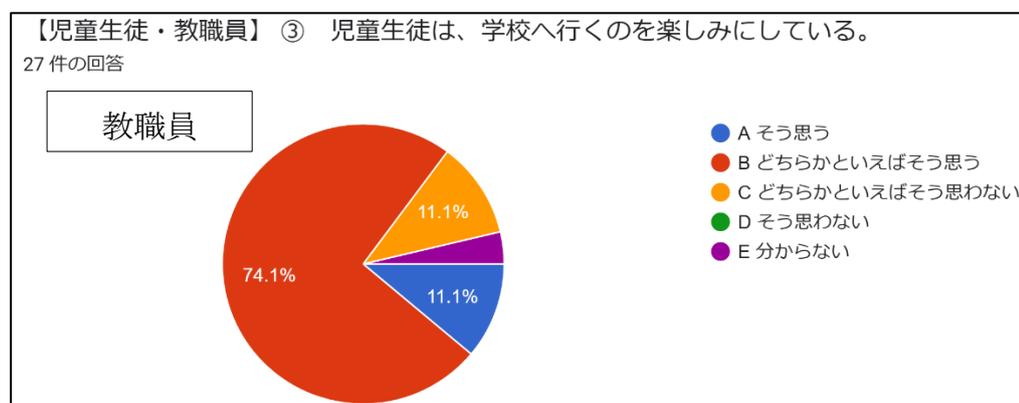
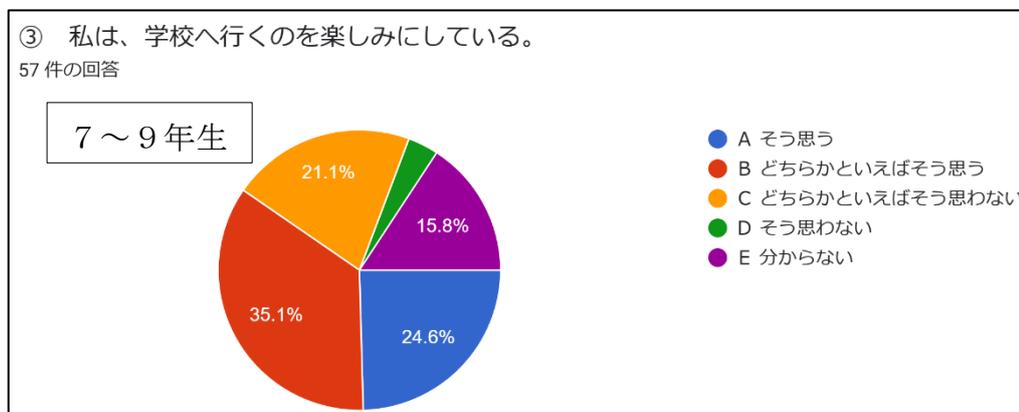
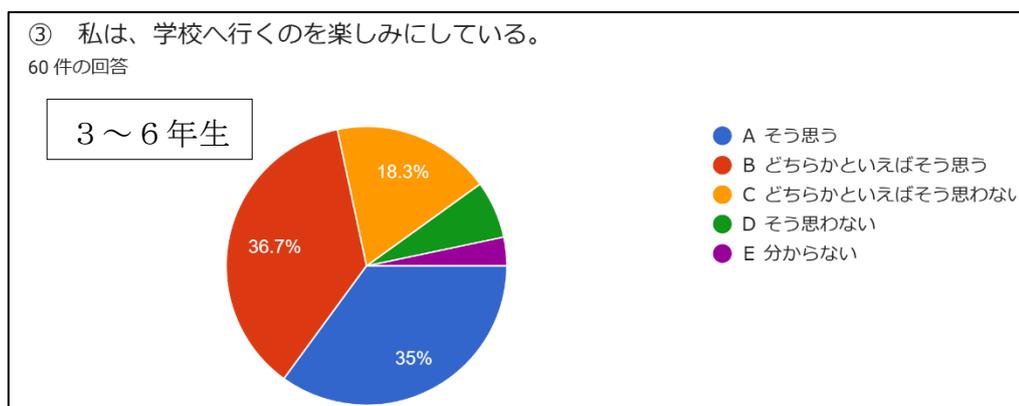
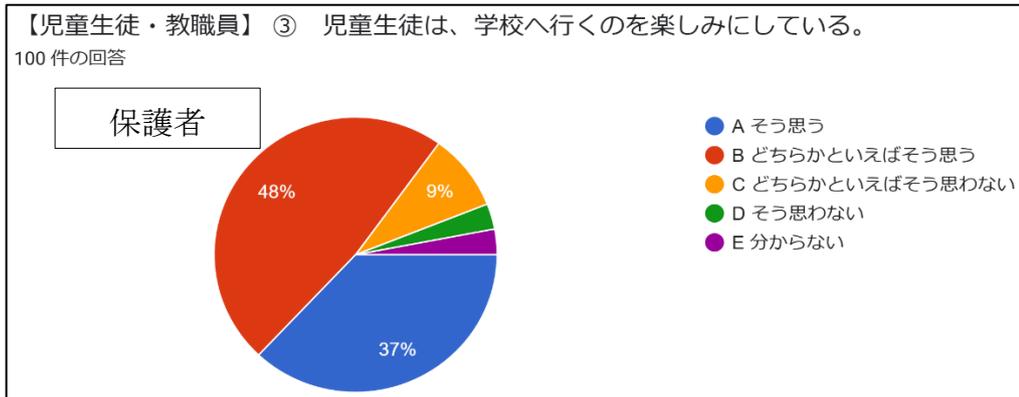
【児童生徒・教職員に関する質問】

② 規範意識



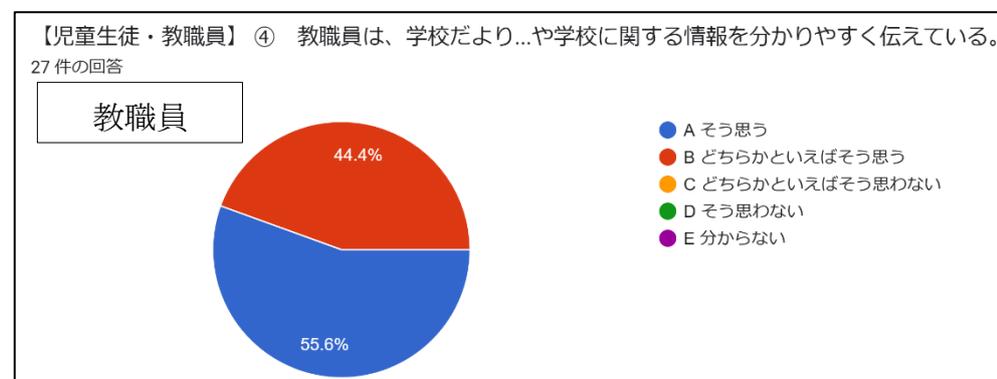
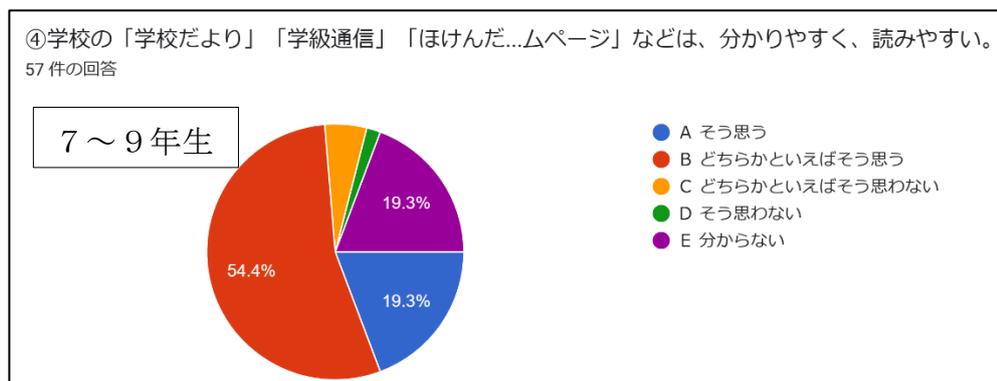
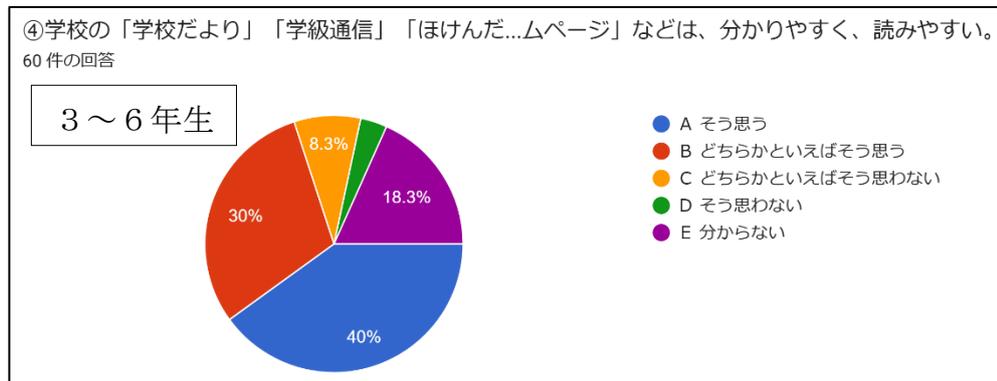
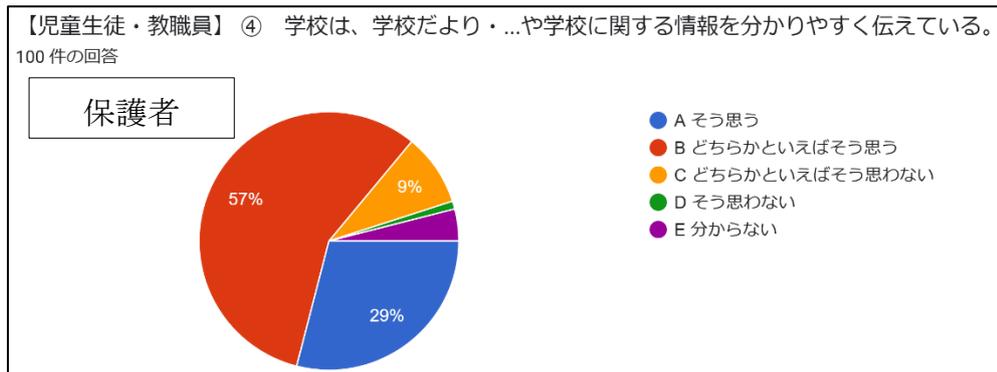
【児童生徒・教職員に関する質問】

③ 登校意欲



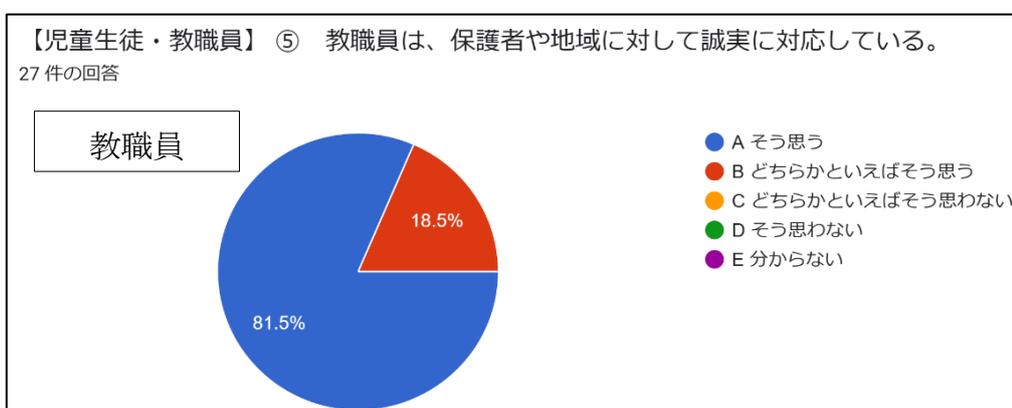
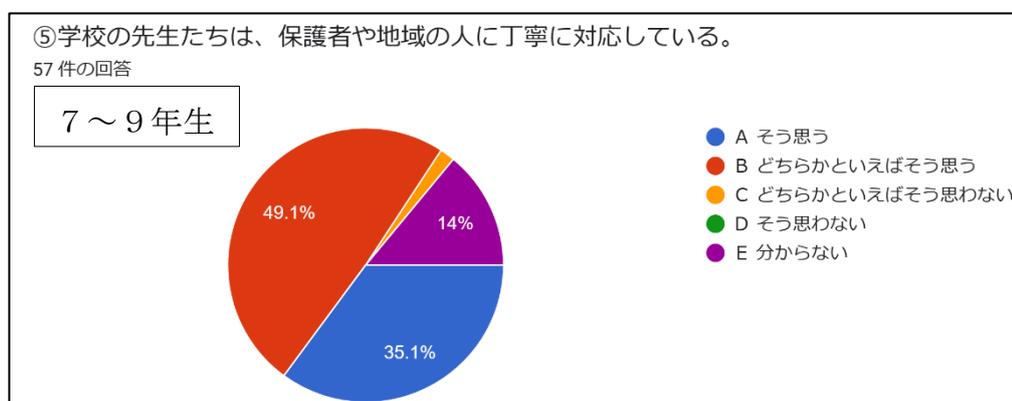
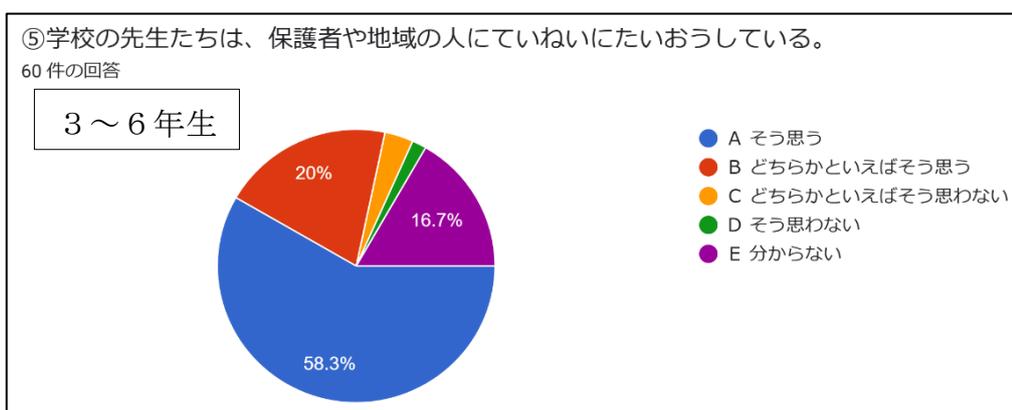
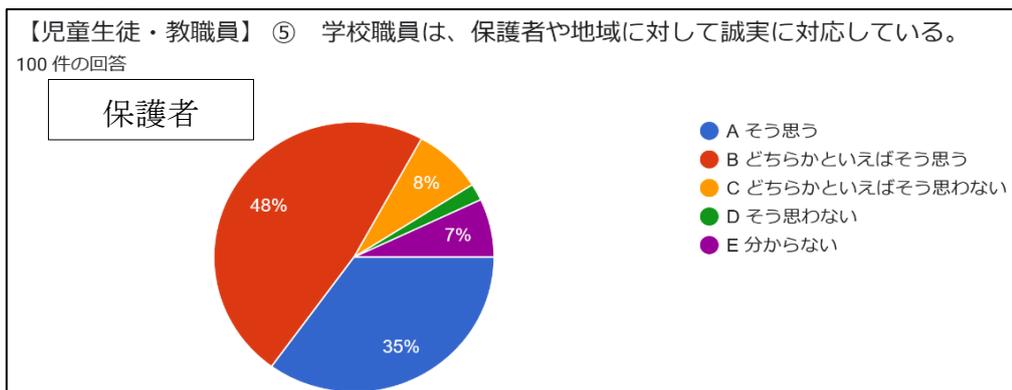
【児童生徒・教職員に関する質問】

④ 情報公開



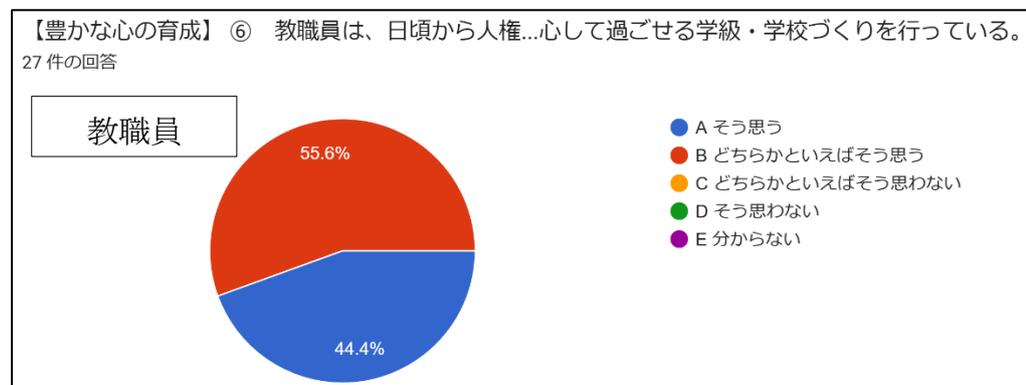
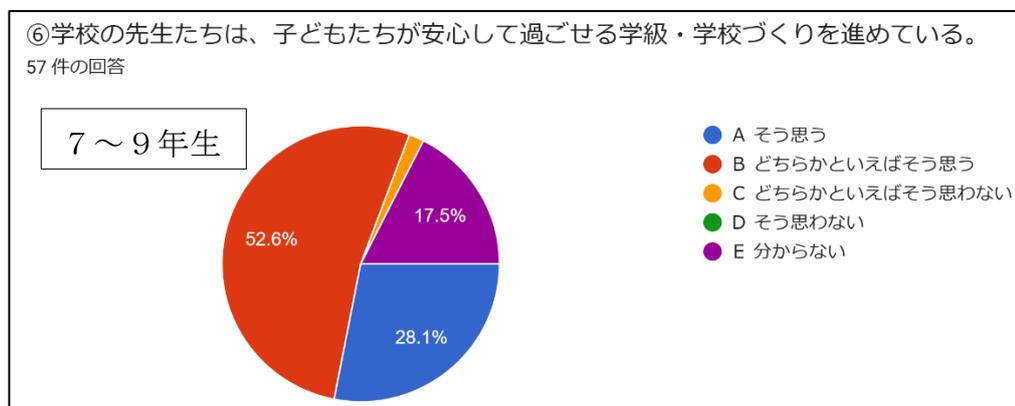
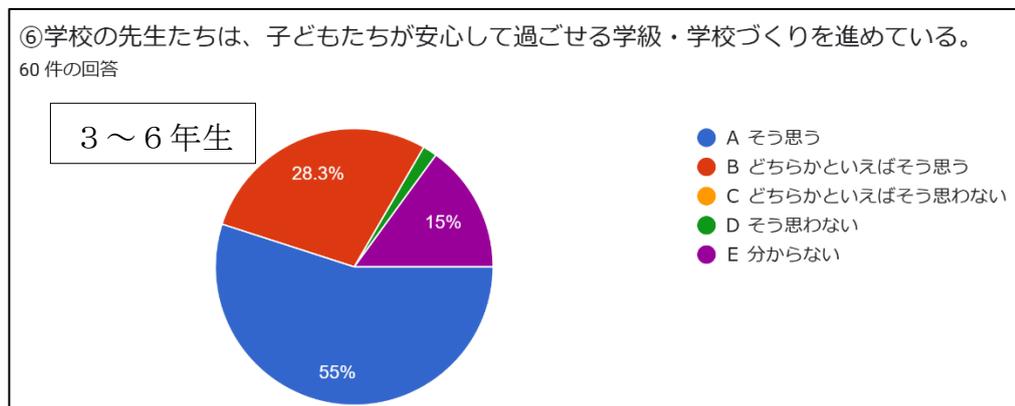
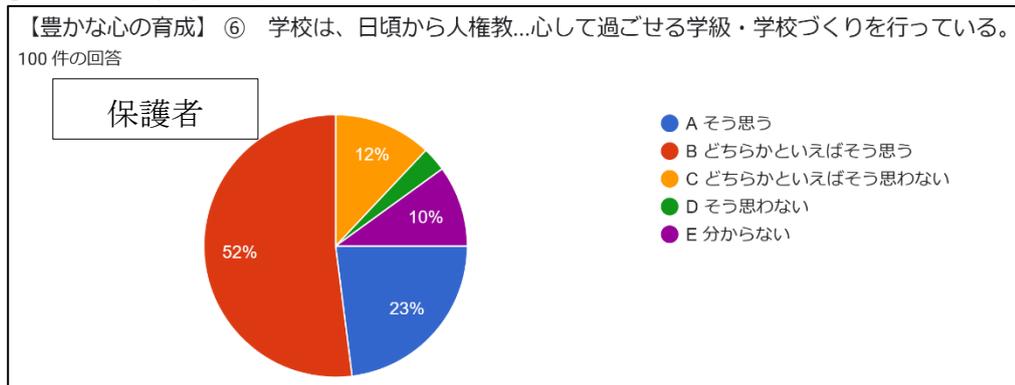
【児童生徒・教職員に関する質問】

⑤ 職員対応



【豊かな心の育成に関する質問】

⑥ 人権教育の充実

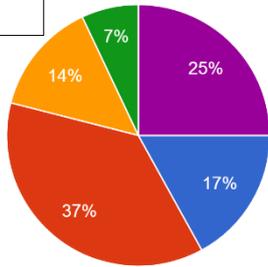


【豊かな心の育成に関する質問】

⑦ いじめ・不登校の未然防止

【豊かな心の育成】 ⑦ 学校は、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・対応に取り組んでいる。
100件の回答

保護者

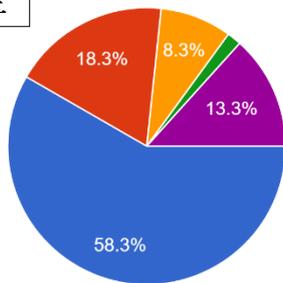


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

⑦学校の先生たちは、学校でいじめ等が起こらないように取り組んでいる。

60件の回答

3～6年生

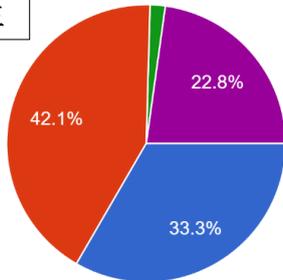


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

⑦学校の先生たちは、学校でいじめ等が起こらないように取り組んでいる。

57件の回答

7～9年生

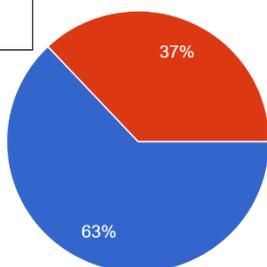


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

【豊かな心の育成】 ⑦ 教職員は、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・対応に取り組んでいる。

27件の回答

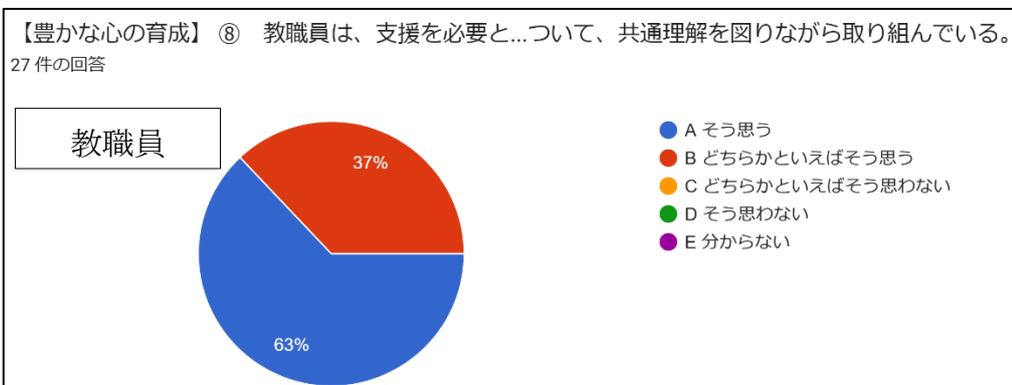
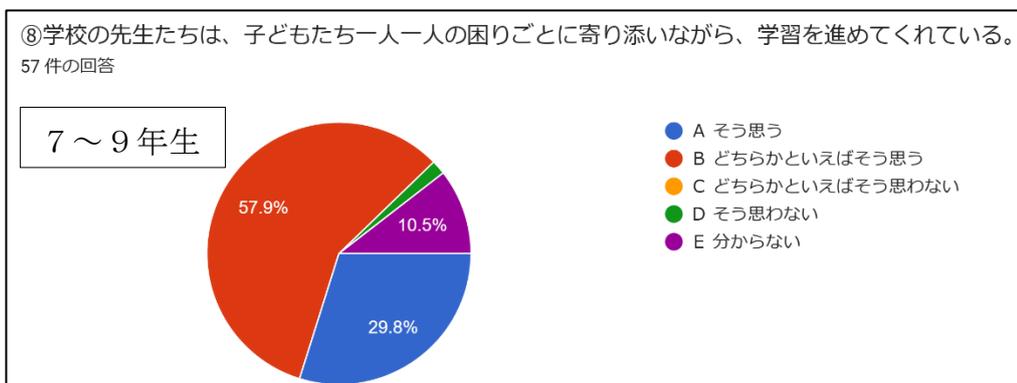
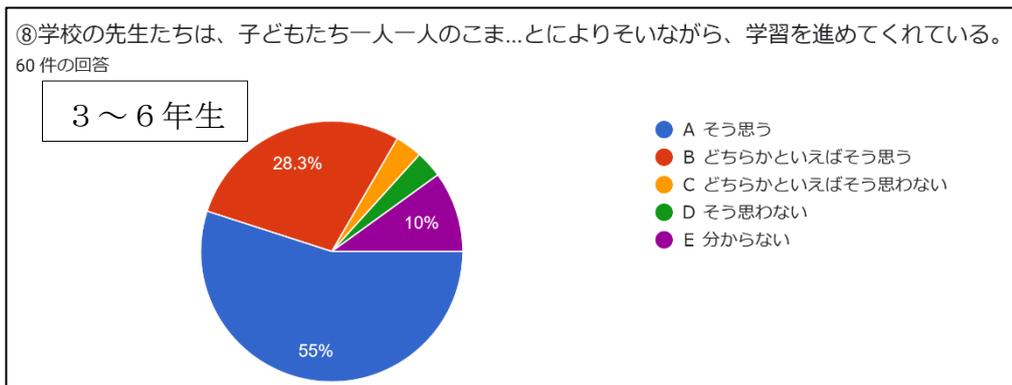
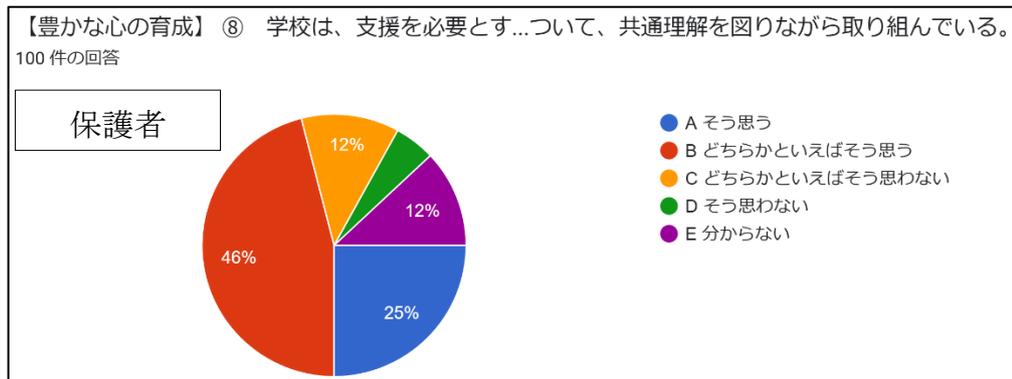
教職員



- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

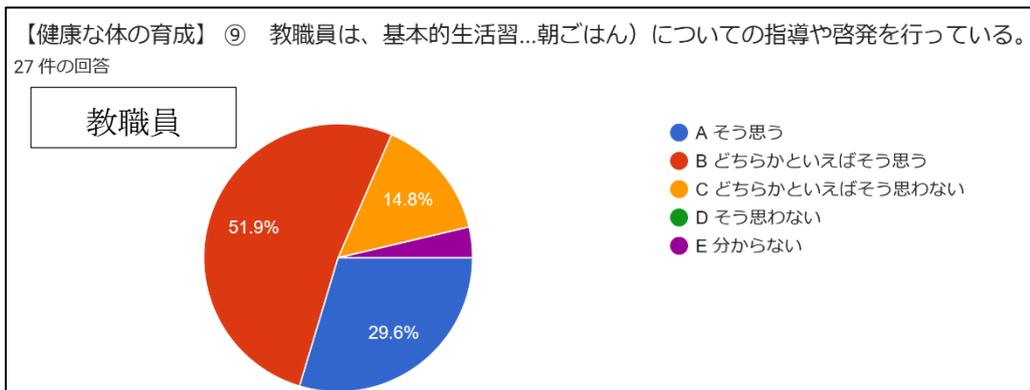
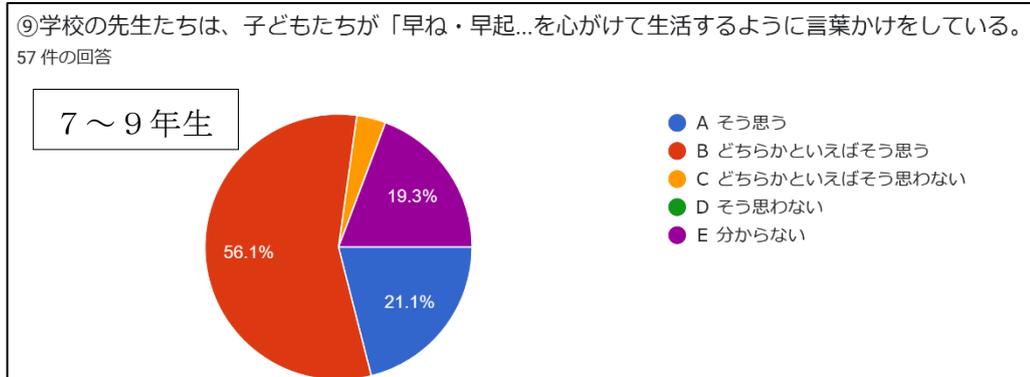
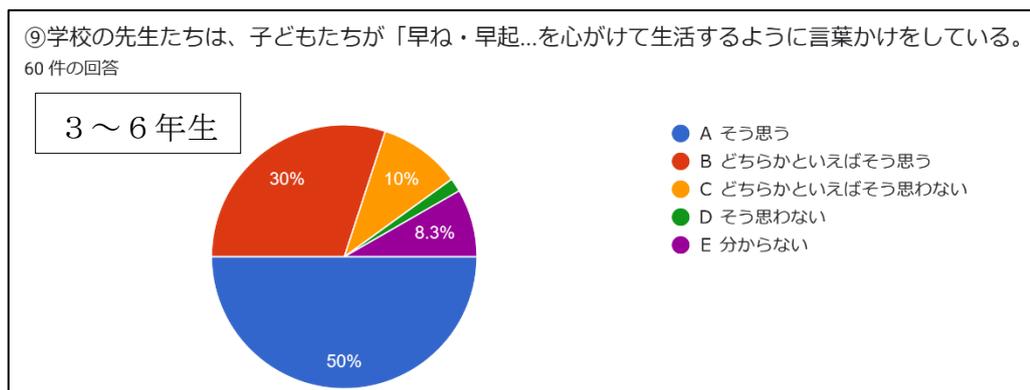
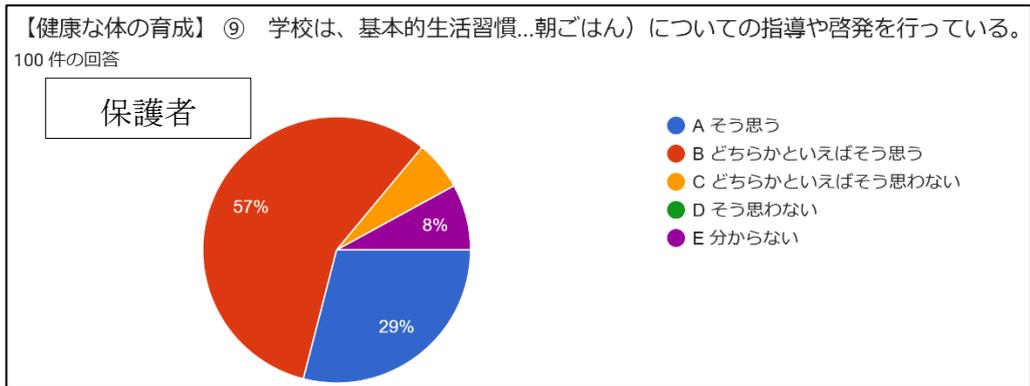
【豊かな心の育成に関する質問】

⑧ 支援体制の充実（特別支援教育）



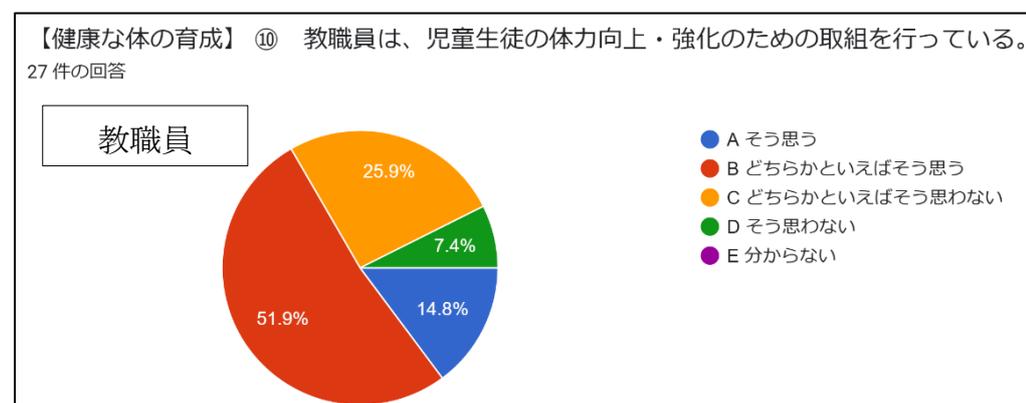
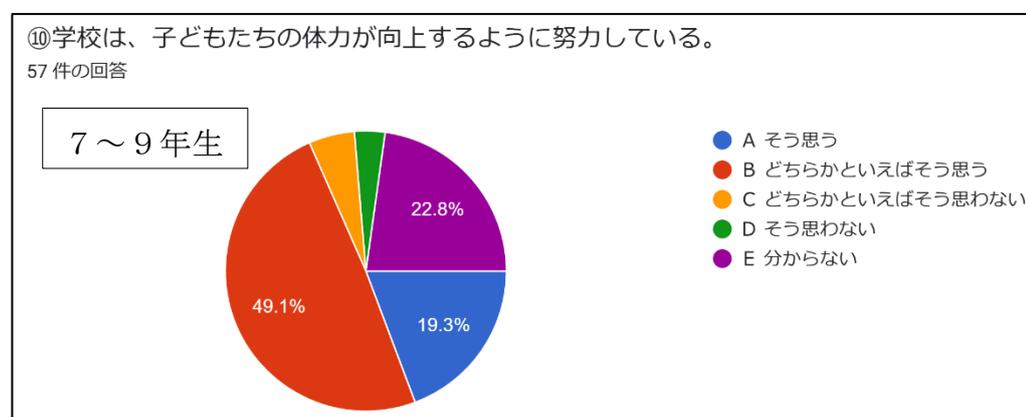
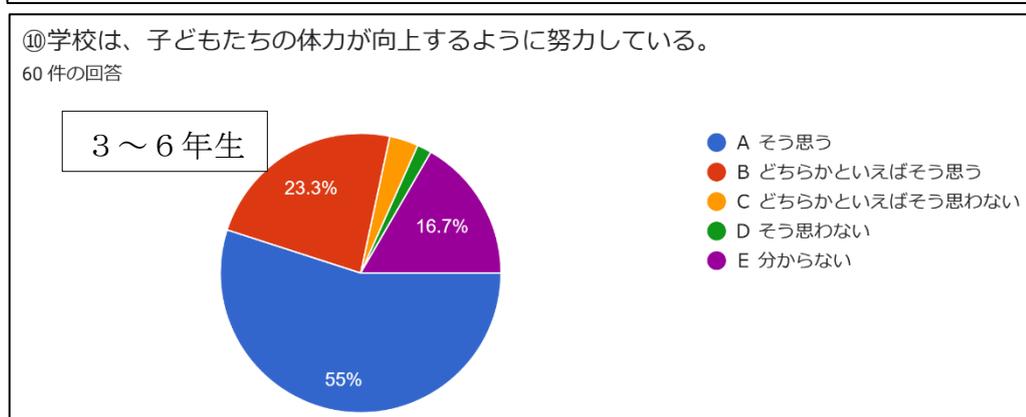
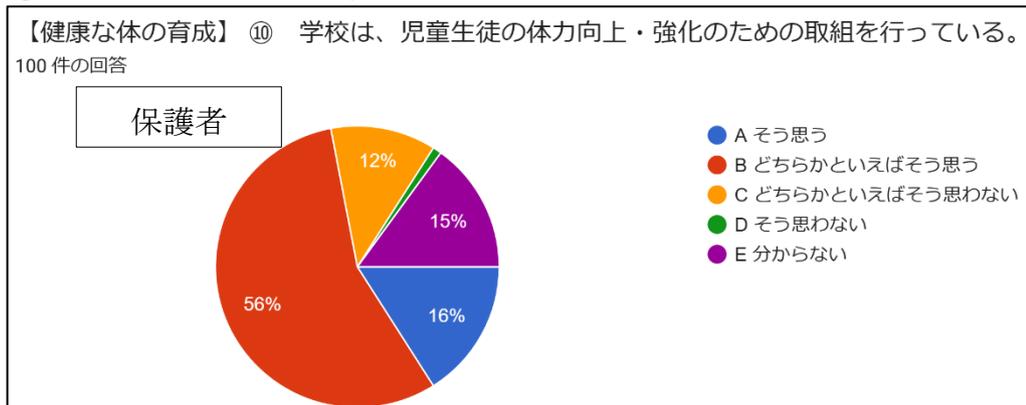
【健康な体の育成に関する質問】

⑨ 基本的生活習慣の確立



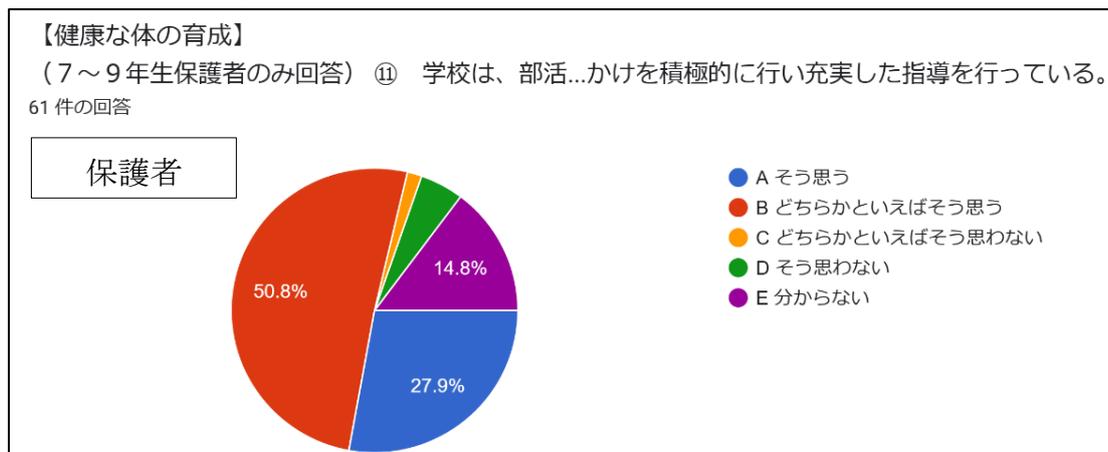
【健康な体の育成に関する質問】

⑩ 体力の向上・強化

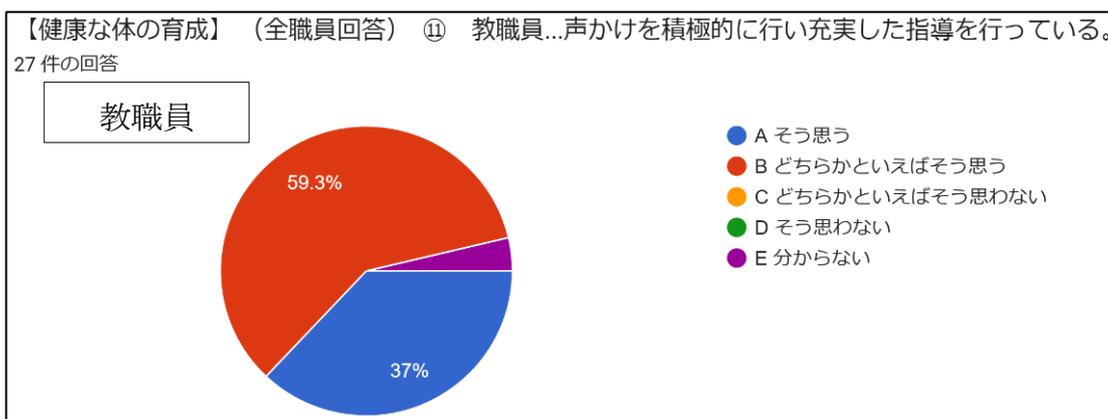
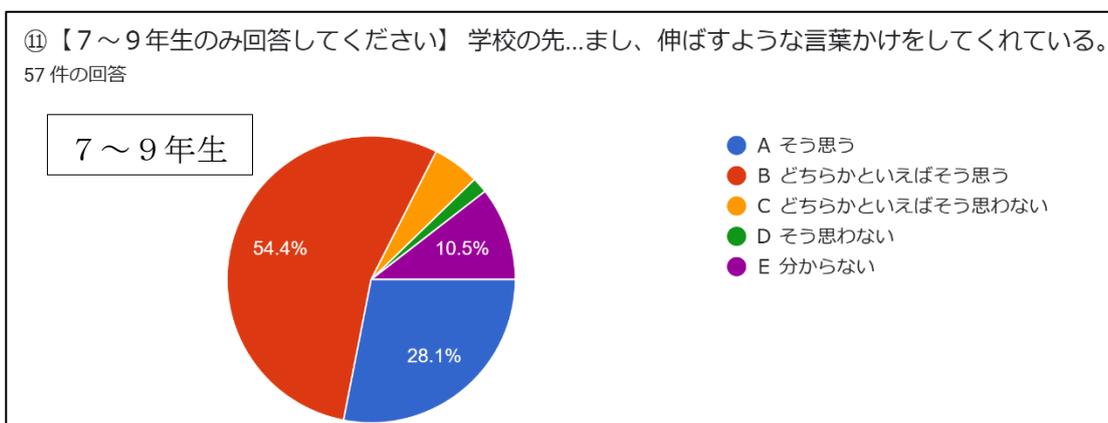


【健康な体の育成に関する質問】

⑪ 部活動指導の充実（7～9年生の関係者のみ回答）

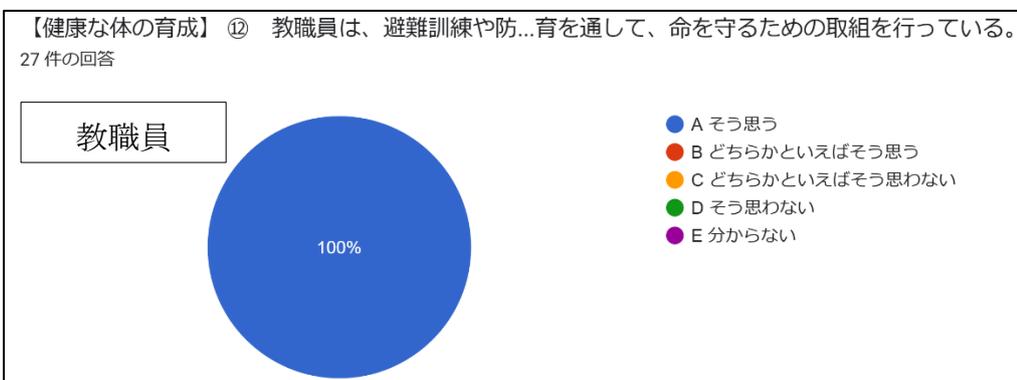
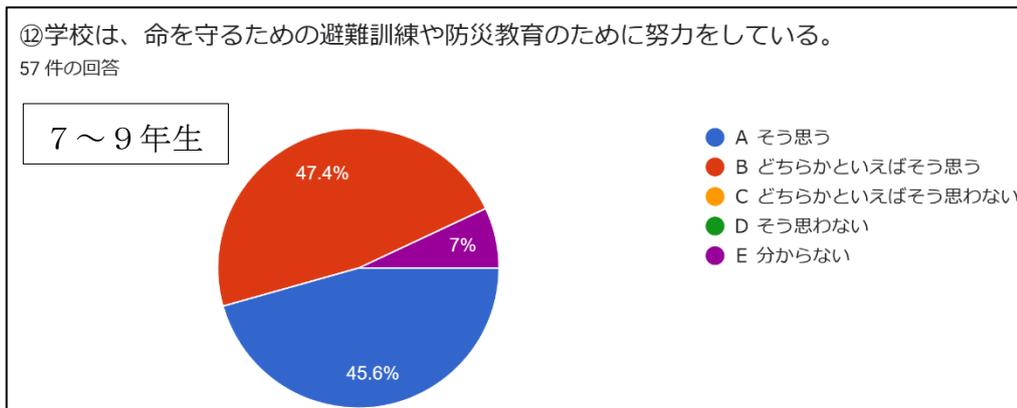
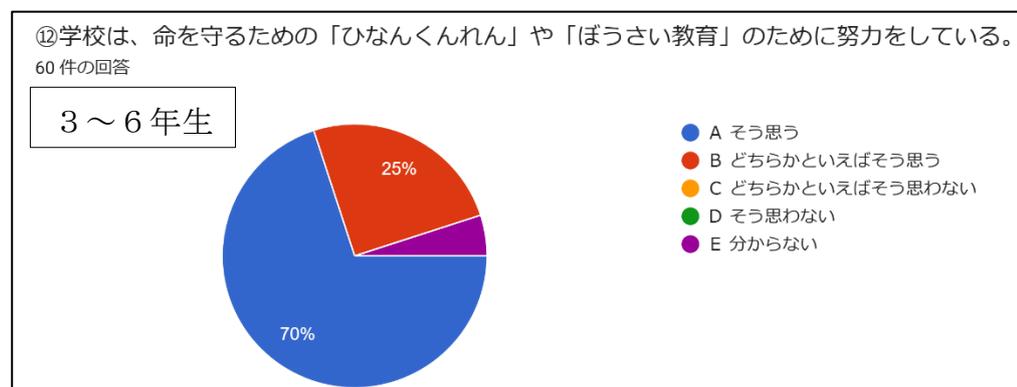
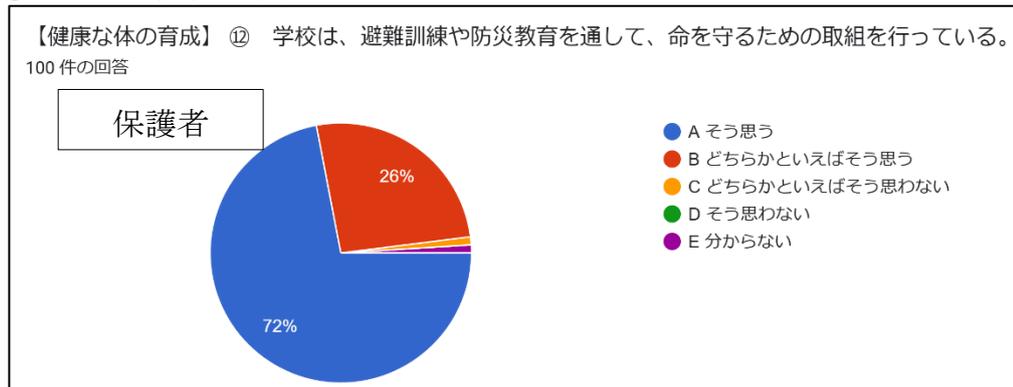


3～6年生
 部活動がないため
 回答なし



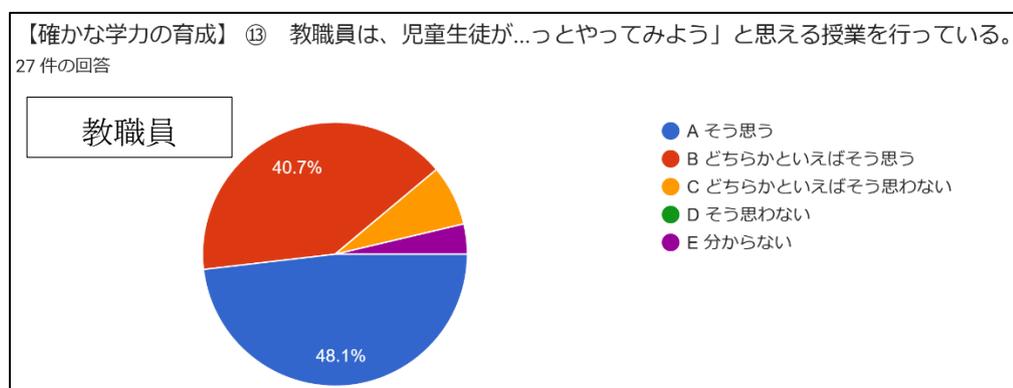
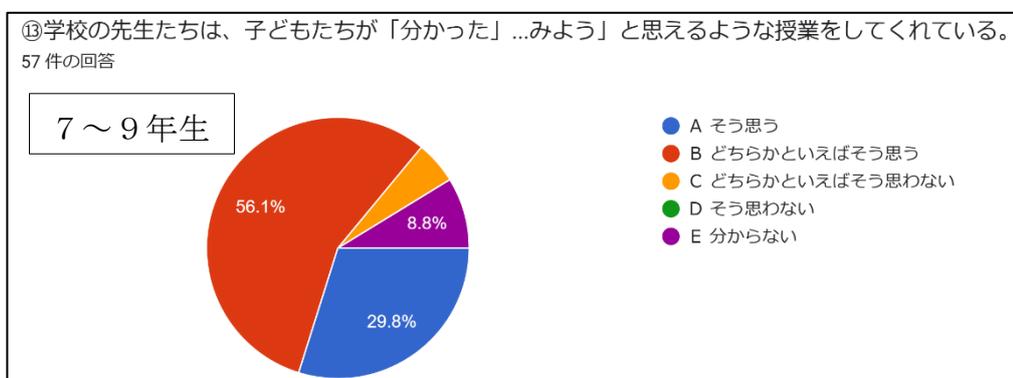
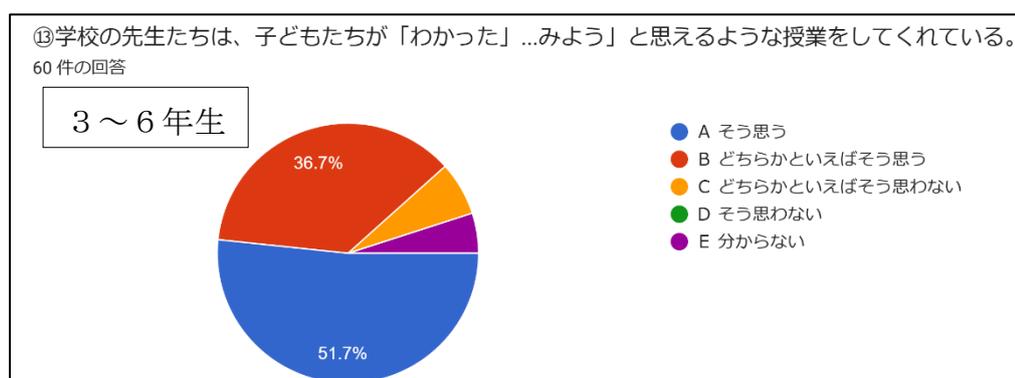
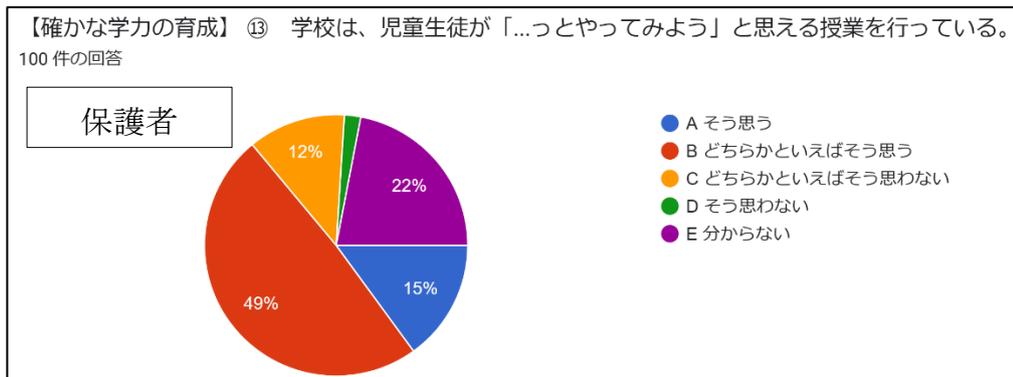
【健康な体の育成に関する質問】

⑫ 防災教育の充実



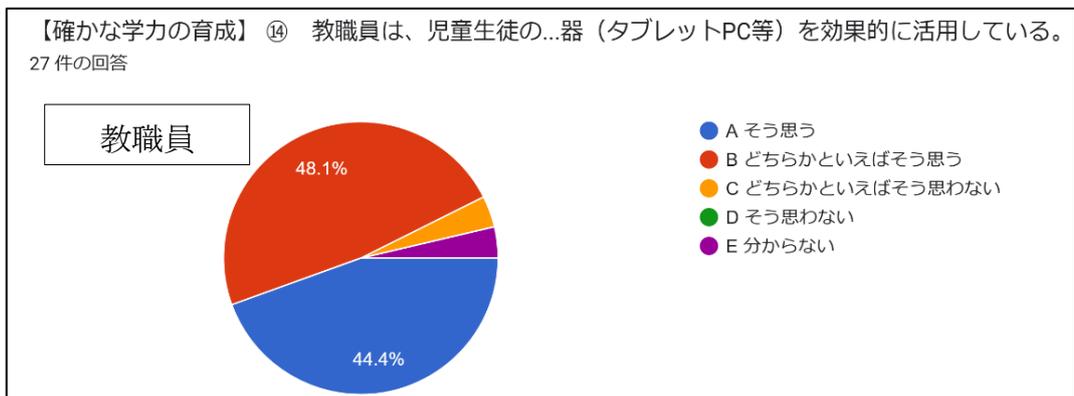
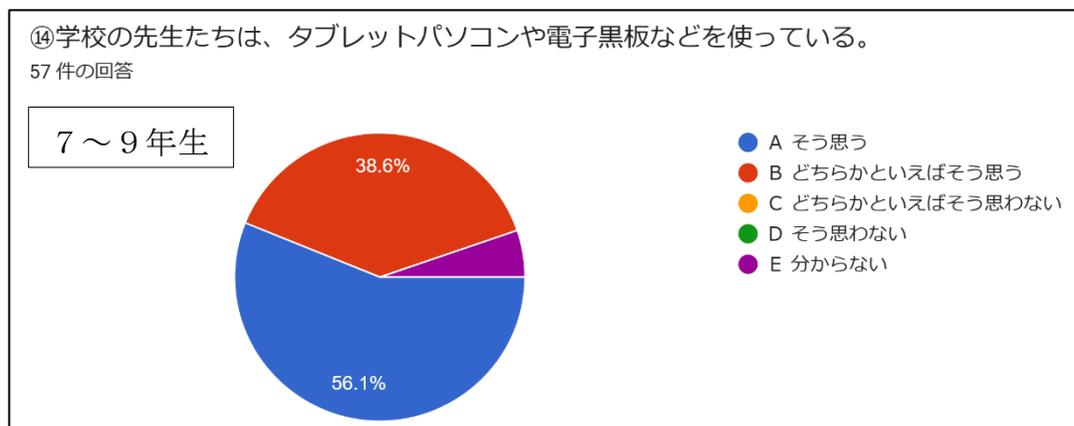
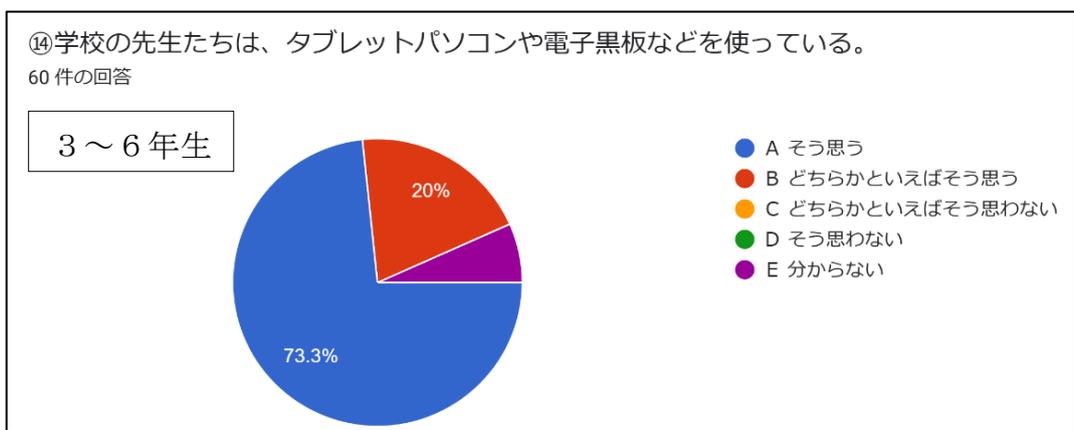
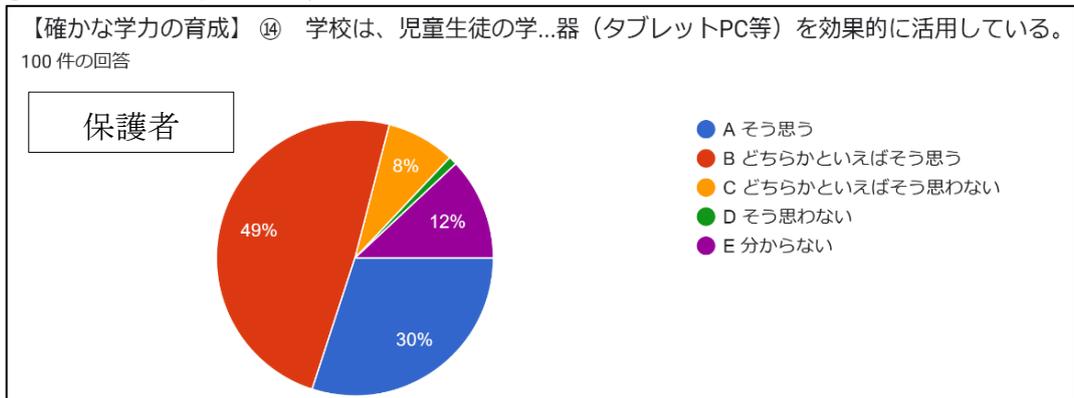
【確かな学力の育成に関する質問】

⑬ 授業改善



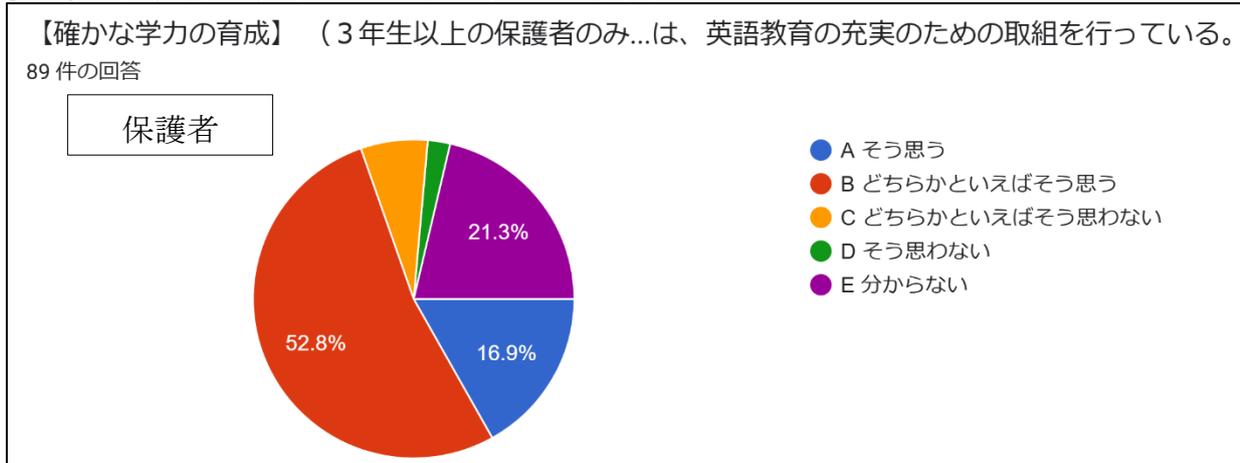
【確かな学力の育成に関する質問】

⑭ ICT機器の効果的活用

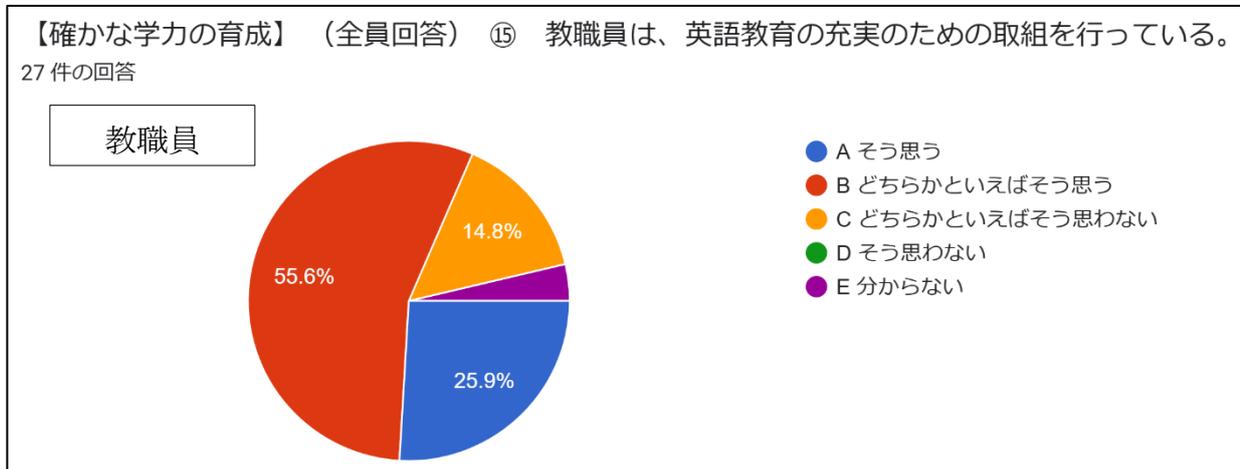
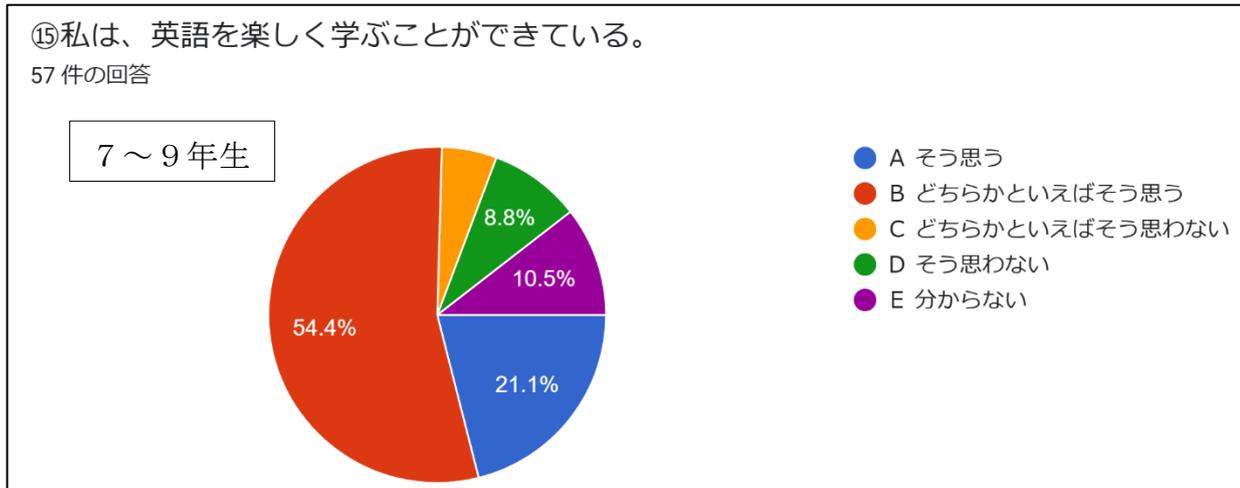


【確かな学力の育成に関する質問】

⑮ 英語教育の充実（3年生以上の関係者のみ回答）



3～6年生データなし
質問項目に反映されず



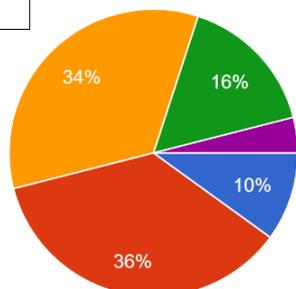
【確かな学力の育成に関する質問】

⑩ 読書活動の推進

【確かな学力の育成】 ⑩ 児童生徒は、学校や家庭で読書に親しんでいる。

100 件の回答

保護者

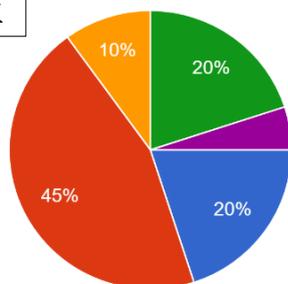


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

⑮私は、図書館などを利用して、学校や家でよく読書をしている。

60 件の回答

3～6年生

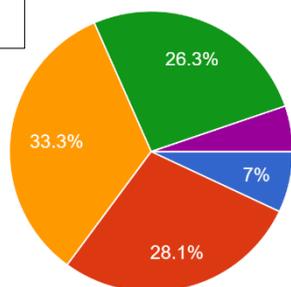


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

⑯私は、図書館等を利用して、学校や家庭でよく読書をしている。

57 件の回答

7～9年生

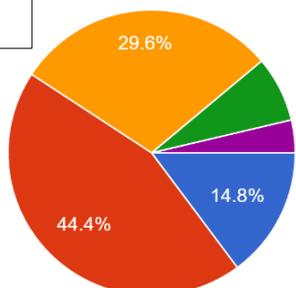


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

【確かな学力の育成】 ⑩ 児童生徒は、学校や家庭で読書に親しんでいる。

27 件の回答

教職員



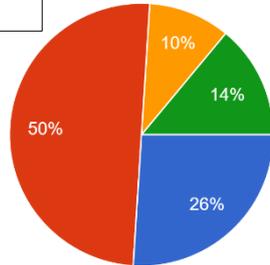
- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

【確かな学力の育成に関する質問】

⑰ 家庭学習の習慣化

【確かな学力の育成】 ⑰ 児童生徒は、家庭で宿題や自主学習に取り組むことを習慣化している。
100 件の回答

保護者

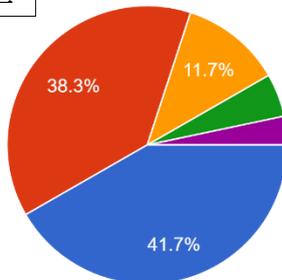


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

⑰私は、家で宿題や自主学習に毎日取り組んでいる。

60 件の回答

3～6年生

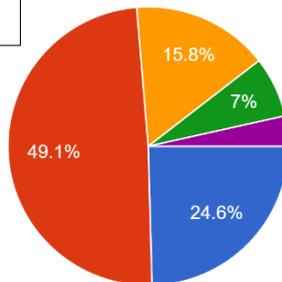


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

⑰私は、家庭で宿題や自主学習に毎日取り組んでいる。

57 件の回答

7～9年生

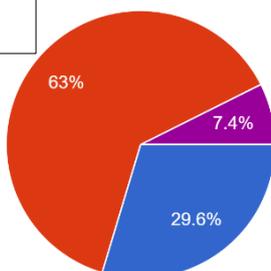


- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

【確かな学力の育成】 ⑰ 教職員は、宿題や自主...の家庭学習の習慣化のための取組を行っている。

27 件の回答

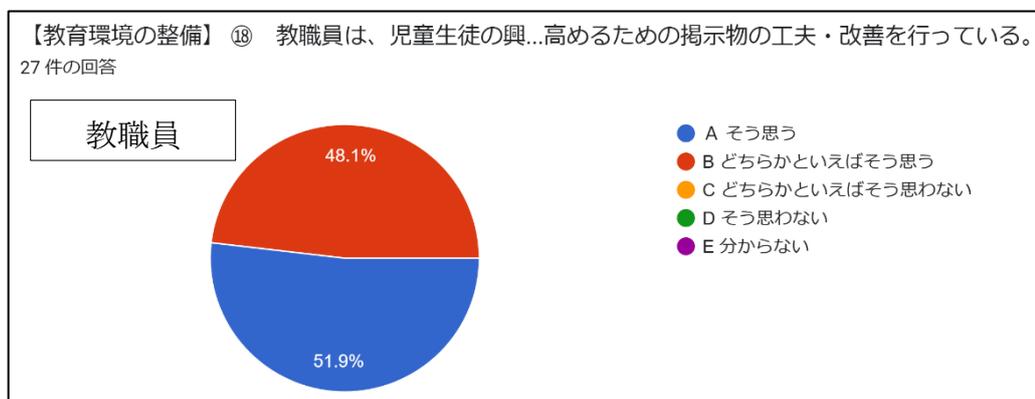
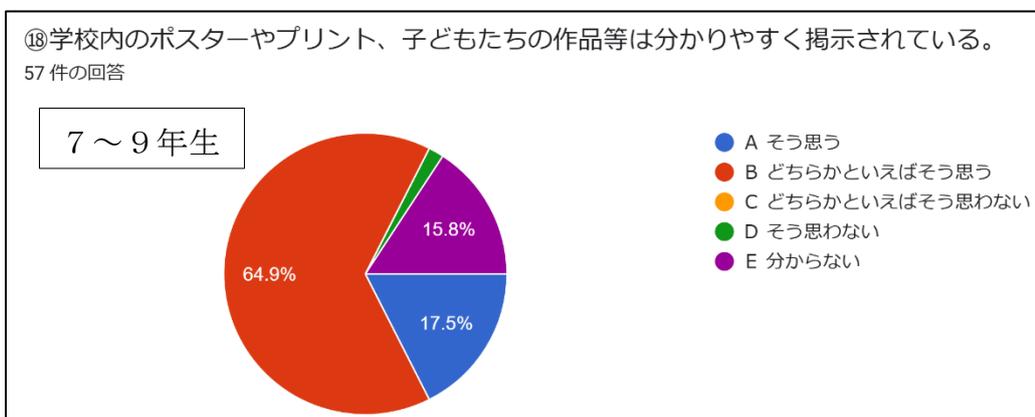
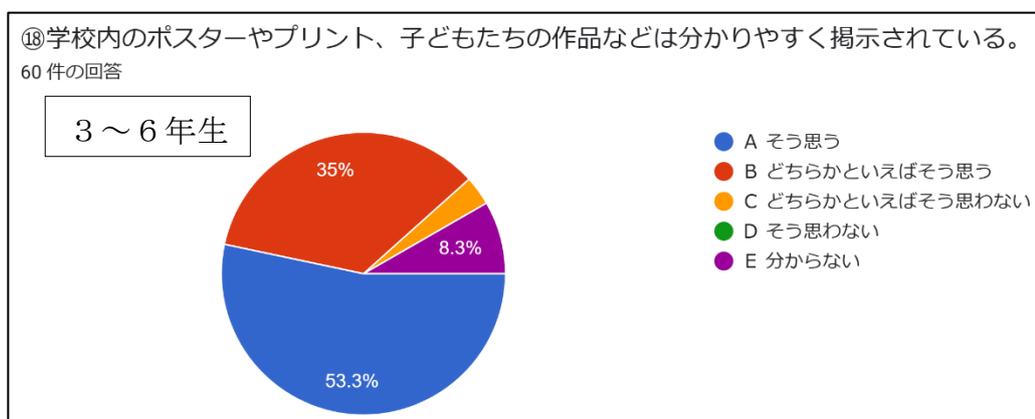
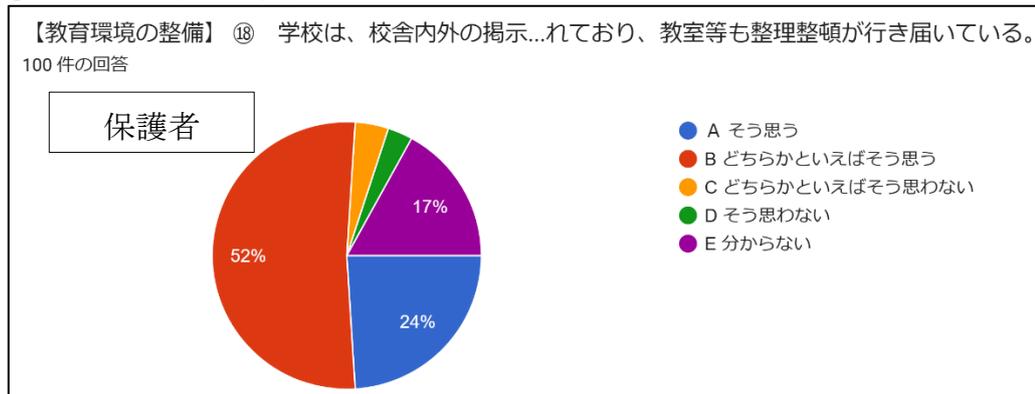
教職員



- A そう思う
- B どちらかといえばそう思う
- C どちらかといえばそう思わない
- D そう思わない
- E 分からない

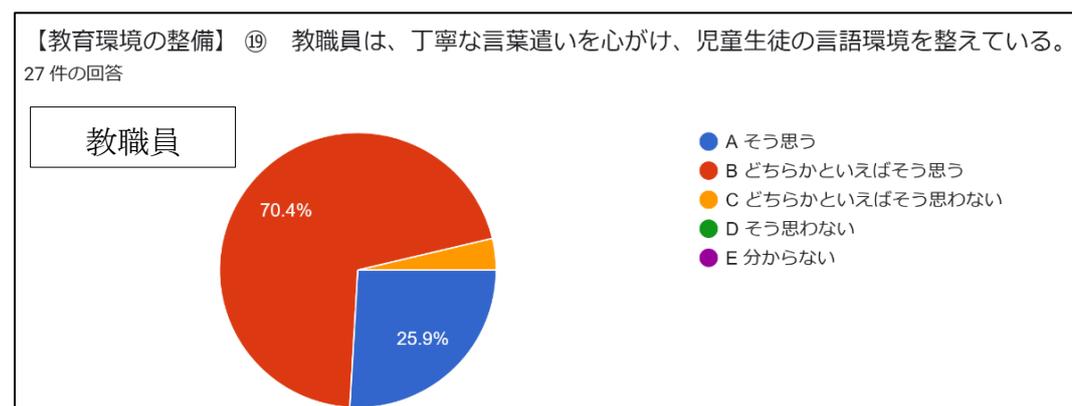
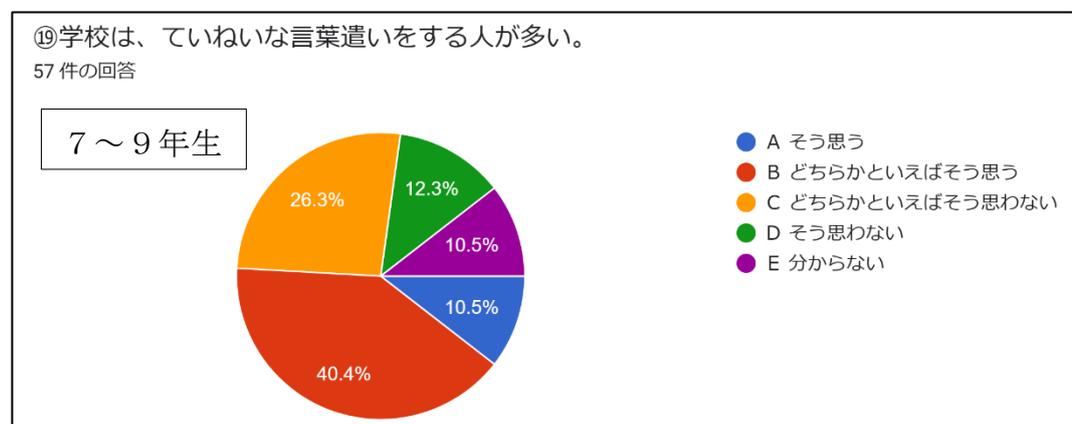
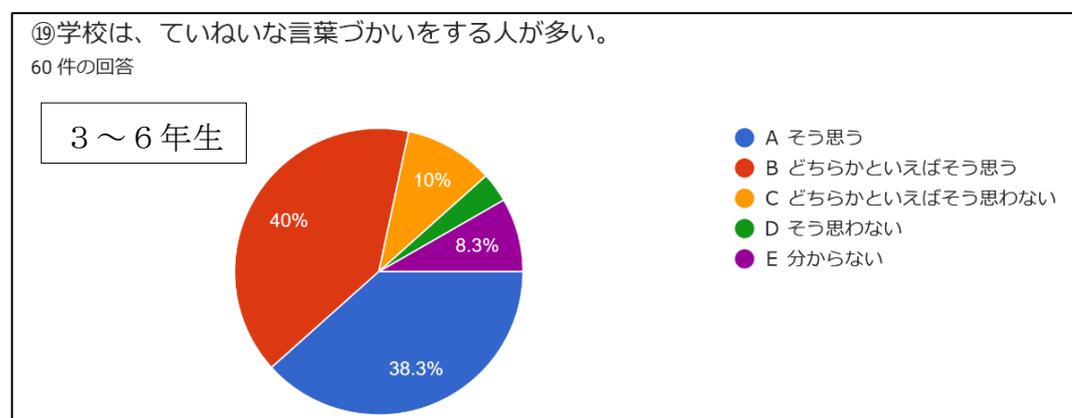
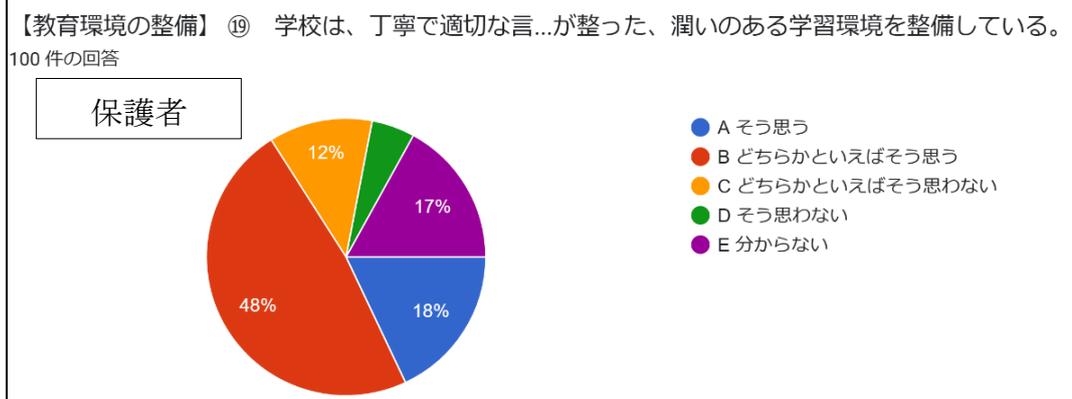
【教育環境の整備に関する質問】

⑱ 校内掲示の充実



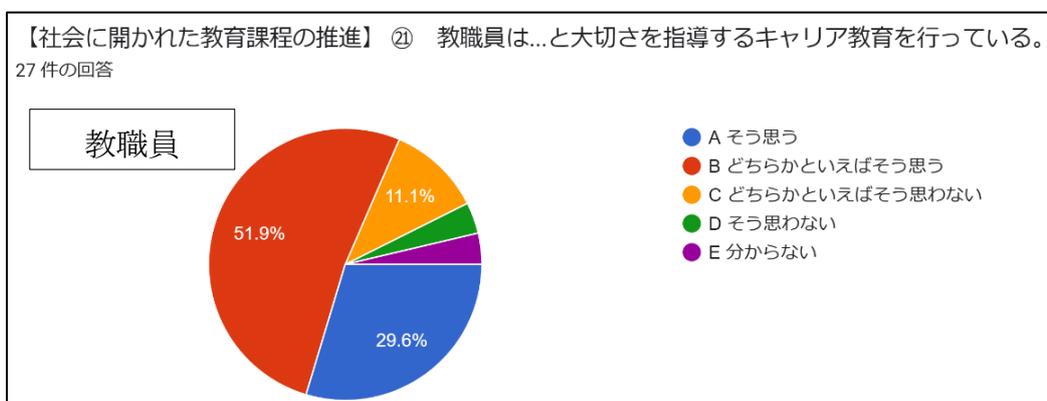
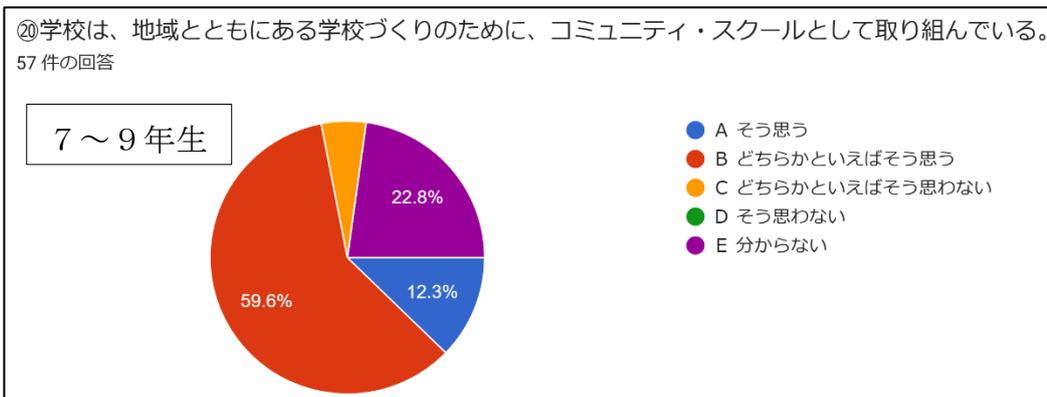
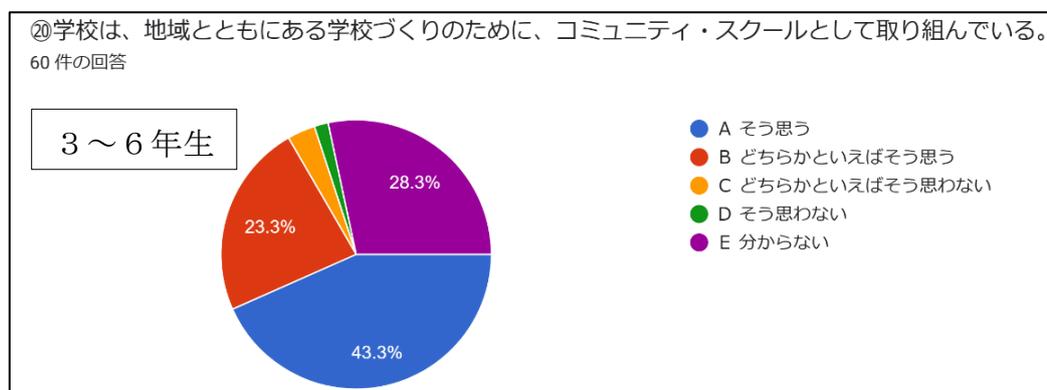
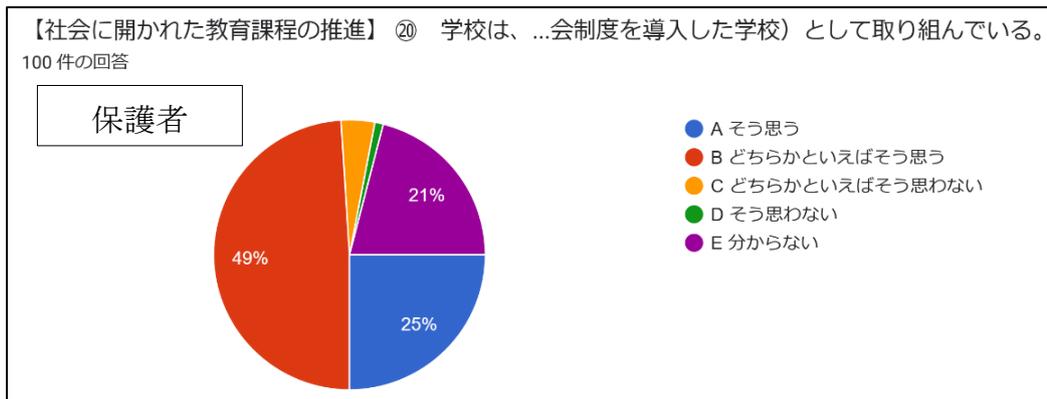
【教育環境の整備に関する質問】

⑱ 言語環境の充実



【社会に開かれた教育課程の推進に関する質問】

⑳ 学校運営協議会の充実

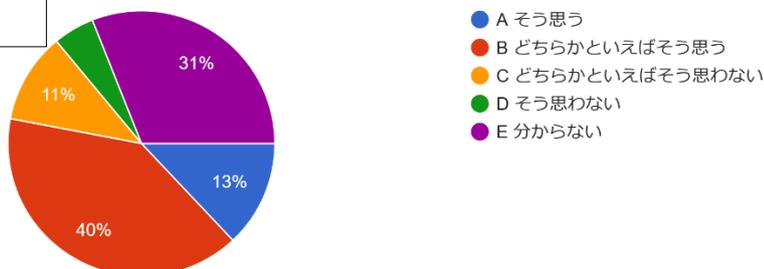


【社会に開かれた教育課程の推進に関する質問】

②1 キャリア教育の充実

【社会に開かれた教育課程の推進】 ②1 学校は、...に夢や目標を持たせるための取組を行っている。
100件の回答

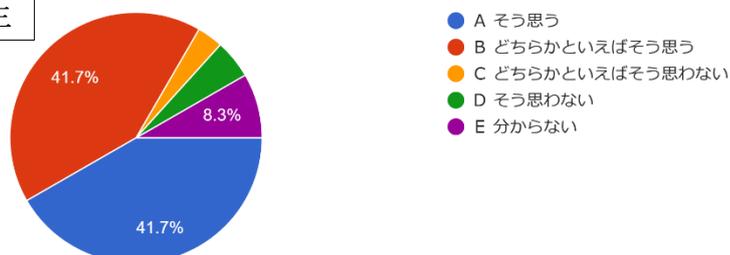
保護者



②1 私は、将来の夢や目標をもって生活をしている。

60件の回答

3～6年生



②1 私は、将来の夢や目標をもって生活をしている。

57件の回答

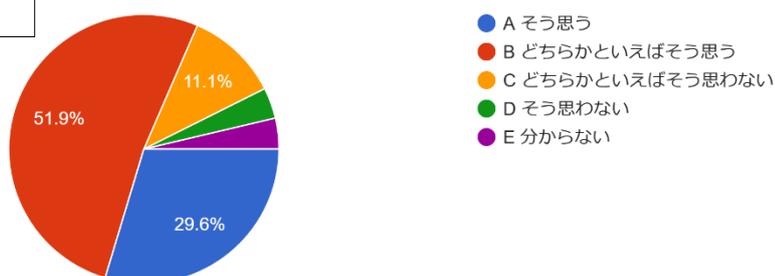
7～9年生



【社会に開かれた教育課程の推進】 ②1 教職員は...と大切さを指導するキャリア教育を行っている。

27件の回答

教職員



【 保護者 自由記述の内容 】

- ①担任の先生の言動で不愉快な思いをした事がある様です。
- ②国語の教科書の音読の宿題があるので教科書は読んでいますが、1年生の時に比べて図書室の本を持って帰ってくるのが少なくなったと感じています。自主的に持って帰ってくるお子さんもいらっしゃると思いますし、学校でも読書の時間はあるとは思いますが、家庭で声掛けをすると持って帰ってきて家でその本を読む事もあるので、持ち帰りが定番化するのも良いと思います。低学年のうちに、よりたくさんの本を読んで言葉を知って使えるようになるといいなと思います。
- ③子供から聞く給食の内容と量が、子供の学年に応じてではないと思う。成長期だと思うが、内容も乏しい、量も少ないと思います。とても、親からすると心配です。改善をお願いします。
- ④児童同士の嫌がらせが目立ちます。次は自分の子供かと考えると非常に腹立たしいです。率先して嫌がらせを行う児童の親には説明などされているのかな？と疑問に感じます。本人に話しても意味がないレベルです。家庭で教育していくべきではないでしょうか？もし、自分の子供がそういう卑劣な事をするのであれば是非教えて欲しいですし、知らないままでは他の家族や対象になっている児童に対しても申し訳ないので。
- ⑤記入者の氏名を必要とする理由は为什么呢。
- ⑥昨年度、生徒会を中心に新しい制服も加わることや昨今の時代の流れなどに対応して校則を検討するとのお話を懇談会で伺いました。今年度実際に校則が検討されたような話は子どもを通して聞いてはいませんが、今まで良かったこと（例えば、制服の上から学校指定の体操服や部活着などで防寒して登校すること）などが禁止になったと聞きました。どういう経緯でそうなったのか、代替案はどうなるのかなど生徒会と共に検討し、子どもたちに納得がいくよう説明をするなど、子どもたちと共に作りあげていく学校であることを願います。

○学校評価に関する分析及び考察

※肯定的評価=A(そう思う)+B(どちらかといえばそう思う)の割合

【回答率】

- ・ 保護者 : 102人/97件 = 約105.2% (2人回答の家庭あり)
- ・ 3～6年生 : 60人/61人 = 約98.4%
- ・ 7～9年生 : 57人/62人 = 約91.9%
- ・ 教職員 : 27人/27人 = 100% (管理職は除く)

【全体的な傾向について】

分析

- ・ 肯定的評価は教職員が最も高く、学校における教職員の取組(指導)の意識と保護者及び児童生徒の受け止めの意識とのギャップが見られる項目がある。
- ・ 肯定的評価として高い数値(保護者・児童生徒の80%以上)結果を示す質問項目が、21問中9項目あり、令和6年度と比較すると3項目増えている。
- ・ 質問項目によっては、「分からない」とする回答が多く見られる。

考察

- ・ 保護者はほぼ全家庭から回答を得ることができた。安心メールやホームページ(保護者専用ページの開設)等による積極的な情報発信・協力依頼を進めてきたことで、学校の取組に対する理解を徐々に得ることができた結果ととらえる。
- ・ 防災教育研究推進校研究発表会に多くの保護者が参加したことで、学校行事等への参画意識が高まったものと考ええる。
- ・ PTAとして、全学年による家庭教育講演会・親の学びプログラム等を実施したことが、学校の様子を知る機会の創出につながったものと考ええる。
- ・ 「分からない」との回答が見られた項目については、取組の充実及び取り組み方法等の改善、また、情報発信の在り方について検討する必要がある。

【児童生徒・教職員に関する質問について】

分析

- ・ 「あいさつ」については、保護者、児童生徒の肯定的評価が高く、教職員との意識の差が大きい。
- ・ 「規範意識」については、3者ともに高い肯定率を示した。
- ・ 「登校意欲」では、7～9年生において肯定的評価が59.7%と低くなっており、分からないと回答した生徒が15.8%(9人)いた。
- ・ 「情報公開」「職員対応」については、教職員に比べ保護者・子供の肯定率はやや低か

った。特に情報公開の肯定率が保護者86%に対し、子供は70%台であった。

考察

- ・児童生徒会役員が公約に掲げたあいさつ運動に年間通じて取り組んだ成果が数値として表れたと考える。保護者もおおむね高い数値となったことは、子供が家庭や地域でも少しずつ挨拶する姿が見られている結果と受け止める。しかし、あいさつの指導に直接的に関わる教職員の評価は低い。まだまだ成長の余地があると捉え、今後も児童生徒会を主体とした取組により、改善を進めていきたいところである。
- ・学校及び社会のルールについて、今後も保護者・地域の協力のもと遵守の精神を育てていきたい。
- ・登校意欲について、7～9年になると数値が低くなる傾向にある。教科学習の専門性が高くなり、より高度な学習内容を学ぶ中学生年代である。思春期という時期も重なり、一人ひとりが自立に向けて多くの悩みを抱えて学校生活を送っている。学校に足が向かない日も多々あると思われる。子供が少しでも安定した生活を送るために、わくわくする授業の提供、安心できる教室環境づくり、人間関係づくり、忍耐力を養う活動等は必須の取組と考える。
- ・情報公開について、保護者の肯定率は高かったが、子供の肯定率が70%強とやや低かった。学校の様子について積極的にホームページを運用し、1日1回の更新、保護者専用ページの開設を行った結果ととらえる。学級通信等をホームページ上への掲載に変えたことにより、学年によっては子供が通信等を目にする機会が減少し、肯定率に影響したことが考えられる。子供への情報共有については教職員を通じ改善を図っていきたい。

【豊かな心の育成に関する質問について】

分析

- ・「人権教育の充実」「支援体制の充実（特別支援教育）」については、教職員の肯定率100%に対し保護者の肯定率が70%台とやや低い結果となった。また、分からないという回答も10%台と高かった。
- ・「いじめ・不登校の未然防止」については、保護者の肯定率54.0%が最も低く、子供の肯定率は75～76%台であった。また、分からないという回答も保護者25.0%、3～6年13.3%、7～9年22.8%と多かった。一方で教職員の肯定率は100%となっており、保護者や子供との認識の差が大きい。

考察

- ・「いじめ・不登校の未然防止」について、欠席が長期にわたる前に、家庭連絡・訪問・学校での相談、また、SC・SSW等の外部機関と連携し個別に対応を重ねている

が、解決につながっていないケースもあることから、低評価になっていることが考えられる。また、いじめについては人権教育を柱に最重要課題ととらえ学習及び日常生活での指導を進めている。しかし、子供同士が人間関係を構築していく中でのトラブルや人権的配慮に欠ける言動等もあり、心理的安定が保たれない状況で学校生活を送っている子供も少なからずいるものとする。自分を大切にすることで他者への配慮もできる子供の育成に向け、今後更に教職員の人権意識を高めるための研修を行うとともに、子供の人権学習、PTA主催による人権講演等を実施し、学校全体で取り組んでいくことが必要である。

【健康な体の育成に関する質問】

分析

- ・「基本的生活習慣の確立」については、保護者、3～6年生、教職員ともに肯定的評価が80%を超え、7～9年生は77.2%と比較的高い肯定率となった。
- ・「体力の向上・強化」については、昨年度と比較すると10%近く肯定率が下がっている。
- ・「部活動指導の充実」では、昨年度と比較すると15%ほど肯定率が上がっている。

考察

- ・「基本的生活習慣の確立」について、早ね・早起き・朝ごはん、メディア使用等について定期的にアンケートを実施し、結果を保健便り等で家庭に生活習慣改善を啓発してきたことが結果として表れたと考える。今後も継続した啓発の取組が必要である。
- ・「体力の向上・強化」について、昨年度まで取り組んできた「朝の体育活動」が日課の変更により実施困難となり、代替の取組を検討してきたところである。しかし、行事等の取組時期とも重なり、実施に至っていない状況である。本校児童生徒の約7割がスクールバスでの登下校生であるため、体力強化は喫緊の課題である。次年度に向けて、体力向上の新たな手立てを検討していく。
- ・「部活動指導の充実」について、これまで平日の部活動は教職員で実施しており、教職員の子供への関わり方（声のかけ方等）が課題であった。教職員が肯定的な関わりをすることで、子供がネガティブにならず、主体的に部活動に参加する雰囲気が出てきたことが肯定率の上昇につながったものとする。今後、地域移行に向けた動きが加速するものと思われるため、子供がやる気をもって運動に親しむことができる体制を村と一体となり構築していくことが必要である。
- ・「防災教育の充実」はどのカテゴリーも肯定率が90%を大きく超えた。2年間の県教委指定を受けた研究の成果である。今後は、持続可能な実践とするため、取組を精選する必要がある。

【確かな学力の育成】

分析

- ・「授業改善」については、保護者の肯定率が64%と低い、子供及び教職員は80%台と高かった。
- ・「ICT機器の効果的活用」については、保護者の肯定率は約79%となっており、分からないとの回答も12%ある。また、児童生徒及び教職員の肯定的評価は高い。
- ・「英語教育の充実」については、保護者の肯定率が約70%、7～9年生での肯定率が75.5%となっており、前年度から10%近く上昇した。
- ・「読書活動の推進」については、四者とも評価が低い。特に7～9年生では昨年度よりも上昇したが、肯定率は35.1%と低かった。
- ・「家庭学習の習慣化」については、教職員に比べ子供・保護者の評価が低い。

考察

- ・今年度、「わくわく授業大作戦」と称し、問いを生み出す工夫を中心に共通実践事項に取り組んだ。少しずつではあるが、授業改善は進んでいる。しかし、振り返り活動を含め、学びを確かなものにするための取組について、学校総体として検討する必要があると考える。
- ・「ICTの効果的活用」について、新たなツールである「Canva」の活用も進めてきた。スムーズに活用する子供の姿は日常の授業の中で確認できている。今後も充実に努めていく。
- ・「読書活動の推進」については、毎年度の課題である。図書担当及び児童生徒会の図書委員会による読書月間での取組は、趣向を凝らし取り組んでいるが、読書週間の定着には至っていない。低学年のうちに学校の本を借りて読む習慣を更に確立していく必要があり、これを家庭との協力のもと日常化につなげる取組が必要であると考えます。
- ・「家庭学習の習慣化」について、読書と同様大きな課題である。子供のやる気につなげる方法として、家庭学習を確認する教職員を回し、複数の目で評価するなどが考えられる。学校統合前の小・中での取組等も参考に、学力向上対策を進めたい。

【教育環境の整備に関する質問について】

分析

- ・「校内掲示の充実」は概ね高評価であった。
- ・「言語環境の充実」について、保護者、7～9年生の肯定的評価が低い。特に、7～9年生では肯定的評価が50.9%と約半数に留まっている。

考察

- ・防災教育の環境整備部により、校舎内に防災関連の掲示が確実に整備されていた。

- ・「言語環境の充実」について、前期課程は関わる教職員が「くん・さん」を付けて子供を呼び、日常会話も丁寧な言葉が多く聞かれる。後期課程は関わる教職員が呼び捨てのことがあり、共通理解が図られていない。また、子供との心理的距離感や信頼関係構築のため呼称を付けないとの考えも残っているのではないかと考える。言語環境を整えるに当たり、改めて中学校世代の子供への関わり方を地域も含めて考えていく機会ととらえる。

【社会に開かれた教育課程の推進に関する質問】

分析

- ・「学校運営協議会の充実」について、昨年度と比較すると保護者の肯定率は5%ほど上昇し、「分からない」の回答は21%であった。
- ・「キャリア教育の充実」については、保護者及び7～9年生の肯定的評価が低い。また、分からないとの保護者の回答は31%、7～9年は22.8%であった。

考察

- ・学校運営協議会については、今年度、PTA授業参観の親の学びにも参加していただき、保護者の認識はあるものと思われる。実務的なことに関しては認識がほぼないと思われるため、保護者・子供への認知度をあげるための周知方法等の工夫が必要である。
- ・「キャリア教育の充実」について、夢や目標は子供の生活の根幹をなすものである。このことに深く関わるキャリア教育の取組（授業等）に対する評価が低いことは大きな課題である。現在の取組を見直すとともに、子供の心に響く実践の必要性を教職員が深く認識し、地域と連携したキャリア教育を進めていく必要がある。

○学校評価に関する対策

【全体的な傾向について】

- ・「分からない」が多い項目は、事前にとり組内容を周知してから回答してもらう。
- ・学級通信の掲示やタブレット配信など、子供が直接見られる仕組みを整える。

【児童生徒・教職員に関する質問について】

- ・あいさつに関して、児童生徒会主体の取組を継続しつつ、教職員もロールモデルとして参加する。
- ・「あいさつができた場面」を可視化する掲示物や表彰制度を導入する。
- ・登校意欲向上に関して、学級・ステージ・たて割り班での話し合い活動を充実し、話し合い活動に必要な時間を日課に位置付ける。

【豊かな心の育成に関する質問について】

- ・ 人権教育の取組を積極的に発信し、外部に見える化する。
- ・ 早期対応の流れを保護者に分かりやすく説明するために、職員によるいじめ対応の共通理解を更に図る。

【健康な体の育成】

- ・ 朝の体育活動の代替として「3分運動」「学級体力チャレンジ」等の実施を検討する。
- ・ 防災教育に関して、取組を精選し、取組は地域と共有して実践する。

【確かな学力の育成】

- ・ 保護者参観で「わくわく授業」のポイントを紹介する。
- ・ 子供の振り返りを掲示したり配信したりする。
- ・ 低学年からの「読書スタンプカード」、家庭と連携した「親子読書週間」を実施する。
- ・ 学習チェックを複数教員で回す、学習量より「継続」を評価する家庭学習のモデル例を学年ごとに提示するなどの仕組みを整える。

【教育環境の整備】

- ・ 言語環境の整備について、後期課程への関わり方をテーマに研修を実施したり、地域講話の実施など地域の大人にも協力を依頼したりする。

【社会に開かれた教育課程の推進】

- ・ 職業インタビューや探究活動の充実を図り、子供の夢を掲示する「夢マップ」の作成等に取り組む。
- ・ 球磨村の観光資源である棚田を再生するプロジェクトに学校全体で取り組み、総合的な学習の探究活動に位置付け、地域に貢献し未来へのビジョンを持つことでキャリア教育の充実を図る。

○学校運営協議会委員からの主な意見

1 児童生徒の学習面・生活面について

- ・学習面においては、「めあてをつかみ・見通しを持って解決し・まとめ・振り返り」の授業が展開され、全学年で学び方が身につくように思います。また、児童生徒の学ぶ態度等もとても落ち着いた雰囲気です。これも、先生方のご苦労の成果ではないでしょうか。ただ、授業において児童生徒の交流の場が少なく学習活動が受け身になっているように感じます。討論の場づくりが大事だと思います。1年生では子ども同士の「つなぎ発言」が見られ学習に活気を感じました。自分の考えを交流し高め合うことが、学ぶ楽しさを味わいながら確かなものにしていく大事なことだと思います。それが、自信や意欲、やる気につながるように思います。生活面においては、あいさつや規範意識の肯定的な評価は昨年と変わらないように思われます。ただ、登校意欲が昨年に比べ低いのが気になります。もっと自らの自己肯定感を高めていけるような取組が課題かもしれません。
- ・授業参観時に感じたことですが、子供たちがグループで協議する時に協議に参加しない、できない児童・生徒が時々見掛けられるのが気になります。
- ・一貫校になり、上下関係の仲が良く、たて割り班活動をされているようだが、特徴的な活動が一つあればなと思いました。前期課程の子供たちの服装が、自由ではあるが、派手になり、危なそうな服装など見ることがあった。
- ・知識量こそ生きていく上で最も重要視されていた時代から今は、「主体的に学ぶ」ことがよく言われるようになってきていますが、単なる知識だけならAIが分からないことはすぐに答えてくれます。これからは「学ぶ気持ち」がとても重要になってくると思われます。学ぶ気持ちがなければ、新しい疑問も新しい発見も生まれません。そこが問われてくるのかもかもしれません。
- ・英語が世界の共通語と言われている現状の中、学力面において大きな課題となっているようで、グローバル社会へと進む中、児童生徒がその必要性を自覚し、向き合ってくれることを願っている。生活面においてはコミュニケーション作りで最も重要な「挨拶」が以前から比べると率先して声をかけてくれるようになり嬉しく思う。
- ・普段の様子はあまり分かりませんが、読み聞かせの時間、1学期と3学期では見聞きする態度がずいぶん落ち着いてきていると感じています。防災教育研究発表では、子供たちは生き生きしていました。文化祭は見にいけませんでした。ホームページの様子を見ました。挨拶はよくしてくれます。

2 教職員について

- ・義務教育学校2年目で「防災教育」の発表会は大変だったことと思います。ご苦労も

たくさんあったのではないのでしょうか。そのような中、児童生徒の様子を見てみると、どの学年も先生方を信頼しきっているような雰囲気が見て取れました。また、先生方にとっては大変かもしれませんが、校舎内外や教室の掲示物がとても丁寧に掲示してあり、環境が整って児童生徒の学びや成長に大きな影響を与えるように思います。来校者にとってもうれしい限りです。気になるのがアンケート調査結果の「豊かな心の育成」で保護者と先生方の評価にギャップがあることです。学校教育の充実のため学校長を中心に教職員がひとつになっているように感じます。先生方にとっては求められるものが多く、お一人では太刀打ちできないように思います。ワンチームで健康に留意され望んでいただけたらと思います。

- ・上記（子供たちがグループ協議する時）について先生がそのまま進めていくことがあり、参加しない、できない 児童・生徒のフォローがどうなっているのか気になります。
- ・いろんな工夫をして授業され、電子黒板の利用と児童が目をひくようにされていると思う。いじめのことを聞くことがあるが、些細なことも子供は傷つくので、見逃さないようにお願いしたい。
- ・日々、子供たちと格闘？しておられる先生方には頭が下がる思いです。それぞれの子供の特徴をとらえ、保護者の方々とも意思疎通を図りながら、共通の目標に向かって一緒に取り組んでももらいたいと思います。教師志望の学生が減ってきていると言われていますが、現在の職場での働き方に一因があるのかなと思います。それぞれの職場の中で過重な負担を減らしていく取組を続けていってもらいたいと思います。根本的には国・県・村が進んで動かないとダメなんですけどね。
- ・本年度は防災教育推進校研究発表ということもあり、ご苦労されたことと思うが、先生方、児童生徒が一丸となりすばらしい内容を発表され感心した。学校全体に活気が増してきたようで、開校2年目とは感じられないほどである。
- ・（読み聞かせボランティアの）ちびくま活動の時に、その担当の先生方とお話するか運営協議会での授業参観時にお会いするぐらいですが、読み聞かせの時も、お忙しい中快く対応してくださって感謝しています。防災教委研究発表、大変お疲れ様でした。

3 学校と地域とのつながりについて

- ・今年は、学校と地域の距離が近くなってきたように思います。それぞれの学年で地域と連携した教育活動場面が確立してきたように思います。特に、学校のためなら、子どもたちのためならばという思いを持った地域の方が多く、協力体制もできているように思います。ただ、今日的課題「社会に開かれた教育課程」となるとまだまだハードルは高いように思います。学校運営協議会がコーディネートしつつ、地域に暮らす

皆さんが持っておられる技術(学び)を教育活動に活かしていくことが地域の皆さんの生きがいにもつながるように思われます。地域と連携するときは早めの計画をお願いします。

- ・少しずつつながりが、出きていきつつあるのかなと感じています。地域と一体となって子供たちを育てていくためには少しずつでいいので、つながりを強める方策を実行して行く必要があると思います。
- ・防災教室・生活活動・クラブ活動など、地域との関わりも多くあると思うが、伝統芸能が廃れつつある地域があるので、児童の力で継続できないだろうかと思う。
- ・渡校区にいと球磨清流学園と交わることがどうしても少なくなります。清流学園が様々な地域住民とのつながりが持てる様な機会ができればと思っています。
- ・今回、学校だよりが村内全世帯の方々にとって回覧という形で目に届くようになり、学校に対して関心が持てるきっかけとなった。住民の方々も学校の様子が分かり、会話の中に話題となったことがあった。
- ・多くの皆さんの眼で先生方と学校や子供たちを見守っていただけたいですね。教育委員会の方々たちとちびくまで図書整理のお手伝いをさせていただいています。ぼちぼちですが微力ながらお役に立てて嬉しく思います。いろんな特技や技術を持っていらっしゃる方からの学習支援等、どこにどんな人材がいらっしゃるかや地域のことなど私たちも知ることが大事かなと思います。

4 学校運営協議会について

- ・協議会の役割として学校運営の現状や児童生徒が抱える課題を捉え、その課題をどのように解決するとよいのか、その解決策を協議するまで至っていない。もっと運営協議会の計画を見える形にする必要がある。今年度、運営協議会を4回に増やしてより学校が協議会にも見えてきたように思われます。もっと充実していくためにも、年度当初の早い段階で、第一回の運営協議会を設定し、学校運営方針・教育目標等について協議し共有し支援していく体制を作る必要があると思います。なかなか地域には見えないと思いますが、社会に開かれた教育課程の推進を図るため、学校への支援、マネジメントが出来たらと思います。学校として要望があったら遠慮なく教えていただきたい。
- ・今年度は4回開催されて良かったと思います。毎回、言っていますが運営協議会の認知度をあげて地域と共に様々な取り組みができるように努力したいと考えています。
- ・会議ばかりでなく、イベント参加（レクリエーション・たて割り班の活動）自由参加で、児童の様子を見せてもらえればと思う。
- ・会議が開催されるときに授業を参観したり、いろいろと意見を言わせていただいたり

していますが、今後も助言等をしながら協力させていただきます。

- ・少しずつ本会の意義が児童生徒、保護者の方々に浸透してきたようで嬉しく思う。さらに、地域ならではの取組を充実させ、様々な経験・体験の中で特に「ふるさと」への熱い思いが育てていけたらと感じる。
- ・授業参観で生徒さんの様子を見たり、学校の状況を知らせてくださったり、生徒の皆さんと話したりさせていただき有難いなと思います。たまに、「学校運営協議会って何をやっているの？」と聞かれることがありますが、「学校と地域と一緒にあってよりよい学校になっていくように話し合っています」と答えているところです。そのようになれるようにと思っていますが、なかなか頭がついていかなくてすみません。

5 その他

- ・この時期（2月中旬）に次年度に向けた学校長のグラウンドデザインが見えてよかったです。学校長の思いがインパクトのあるグラウンドデザインから読み取れます。また「球磨清流棚田学」は地域・学校の特色を活かした学びになるように思います。児童生徒にとっても身近な素材で興味・関心もあるのではないのでしょうか。夢膨らむ教育活動が展開されそうで楽しみです。それぞれのステージ（学習習慣確立期、基礎・基本定着期、発展・応用力充実期）で育てる具体的な力を円の所にでも表記していただくともっと育まれる中身が見えてくるように思います。（例えば、4年生までに学習習慣期としてこんな児童を育て基礎・基本定着期へとつなげる。）特色ある教育課程の（三本の矢）が学校経営方針案では分かりますが、1枚のグラウンドデザインからは、何が三本の矢なのかが分からない、分かりにくい大事なところだと思います。郷土学習（ふるさと学）、ICT活用、英語教育のところでは、
- ・（令和8年度のグラウンドデザインについて）非常に良いと思いました。子供たちのコミュニケーション力を高めるためには、様々な人達との触れ合いが必要だと思います。部活動については団体競技が少なくなりますが総合的なスポーツを通してチームワークを高められればと思います。
- ・現状の課題を拾い出し、ひとつずつ対応していくことで、子供たちの教育環境がより良いものになると思います。そのために運営協議会の活動を充実させていきたいと考えています。
- ・特色がある教育課程は楽しみで、棚田学などは、継続的にも難しいところがあると思う中で、学校が力を貸してくれるならば、棚田の活性化にもなると思う。部活動の方向性もいいと思う。文化系統の部活もあればいいと思う。
- ・ふるさとも見つけ、自分が住んでいる球磨村がどんな村なのか、どんな魅力があるのか探究する活動はとても大切です。是非（令和8年度のグラウンドデザイン）構想を進

めてもらいたいと思います。

- 球磨清流学園では子供たちの言葉の乱れはありませんか。ニュース報道で、学校の教師に対する暴言が問題になっていましたが、清流学園の先生方の前ではそんな暴言はないでしょうが…。
- (令和8年度のグランドデザインから)「3つのわ」「チーム担任制」「棚田学」すごく考えていらっしゃるんだなと思いました。球磨村の子供たちが、ふるさとを愛し、心豊かでたくましく、共に学び合う児童生徒に育ててくれることを願います。球磨村から出たことない私も球磨村の児とは知らないこと、その良さも分からないことが多いです。私自身も球磨村再発見できればと思います。部活動に関しては、子供たちや地域、保護者からいろんなご意見が出るとは思います。スムーズに移行できますように。
- ホームページの期末テストのブログで「顔晴っていきましょう」とありました。私も相手に「がんばれ」と励ます時は、ほぼ「顔晴って」と書いたり入力したりします。だいぶ前にインターネットでの某ブログで「顔晴って」を見てそれ以来使っています。自分が励まされるときは「頑張って」がほとんどですので学校のブログで書かれたのを初めて目にして嬉しかったです。防災教育を通して、大きな災害があったことを伝えていくこと、自然現象や自分の身の守り方等を学び、子供たちもとても成長したのではと考えます。自然に対する畏敬の念を子供たちも心に刻んでもらいたいと願います。今後も防災教育をお願いします。大変お疲れ様です。